

平成26年度
尾道市教育研究指定校
(コミュニティ・スクール)

思考力・表現力を高める子どもの育成

—思考の形成・他者視点の取得・自己モニターの機能を関連付けた授業づくりを通して—

尾道市立土堂小学校教育研究発表会要項



期日 平成26年11月10日(月)
会場 尾道市立土堂小学校
主催 尾道市教育委員会
尾道市立土堂小学校

ごあいさつ

土堂っ子太鼓の音が、今朝も尾道の町に響き渡っています。

本日、全国各地から多くの先生方のご参加をいただき、このように盛大に教育研究発表会を開催できますことに心から感謝申し上げます。

本校は、平成17年にコミュニティ・スクールの指定を受け、以来、地域とともに歩む学校として、学校運営協議会から示されたミッションステートメントの達成を目指し、教育活動の充実を図ってまいりました。本年度は、①基礎基本を大切にし、確かな学力を育む学校 ②学ぶ力と遊ぶ力、これらの基本となる力を育む学校 ③尾道への郷土愛を高める学校 ④地域と保護者が共に育て支える学校－土堂小学校の教育への理解を深め、地域や保護者同士の交流を促進する－の4つを目指す学校像として、日々取り組んでまいりました。

また、本年度、尾道市教育委員会から「教科・課題別研究指定校」の指定を受け、「モジュール指導と教科指導の関連を明確にした総合的な教育研究の発信」をスクールミッションとして、「思考の形成」、「他者視点の取得」、「自己モニターの機能」を視点に、複数の教科で応用できる汎用性の高い授業を探求してまいりました。特に、本年度は「他者視点の取得」を研究の中心とし、他者との考えのよさや共通点・相違点などに気付かせるため、『比較』『関連付け』『分類』などを授業に組み入れた研究を重ねてまいりました。

本日、これらの実践の一端を発表いたしますが、私たちの取組は試行錯誤の繰り返しで、日々模索しながら歩んでいるところです。皆様からご指導、ご助言をいただき、さらなる改善、発展に向け、一層の努力を重ねてまいります。

終わりになりましたが、本校の研究推進に温かいご指導、ご支援をいただきました多くの先生方に心から感謝を申しあげ、あいさつといたします。

平成26年11月10日

尾道市立土堂小学校

校長 佐々木 智彦

目 次

ごあいさつ

日 程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

会場案内図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

全体会

主催者挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

実践報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

分科会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

講演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

閉会挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

公開授業Ⅰ モジュール授業

第1学年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

第2学年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

第3学年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

第4学年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

第5学年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

第6学年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

特別支援学級（知的）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

公開授業Ⅱ 国語科・社会科・算数科

1年1組 国語科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

1年2組 算数科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

2年1組 国語科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

2年2組 算数科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

3年1組 国語科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

4年1組 算数科（習熟度別指導・基礎）・・・・・・ 31

4年1組 算数科（習熟度別指導・発展）・・・・・・ 34

5年1組 社会科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37

5年2組 国語科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40

6年1組 社会科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43

6年2組 算数科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46

特別支援学級 算数科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49

日 程

8:40 9:10 9:40 9:50 10:35 10:50 11:25 12:15 13:15 14:55 15:10 15:20 16:20 16:30

受付	公開授業 I (モジュール授業)	移動	公開授業 II (国語科・社会科・算数科)	移動	児童発表	実践報告 開会行事	昼食・休憩	分科会	移動	講評	講演	閉会行事
----	---------------------	----	--------------------------	----	------	--------------	-------	-----	----	----	----	------

公開授業 I (モジュール授業) (9:10~9:40)

内 容	公開学年	授業者	会 場
<ul style="list-style-type: none"> 音読, 暗唱, 漢字, 聞き取り ます計算, そろばん 歴史 など	1年1組	松田 鯉栄	1年1組教室
	1年2組	森口 結香	1年2組教室
	2年1組	多久和沙矢佳	2年1組教室
	2年2組	中村 恵	2年2組教室
	3年1組	島本佳代子	3年1組教室
	4年1組	榎田 有香	4年1組教室
	5年1組	舛上 敏成	5年1組教室
	5年2組	川本美紀子	5年2組教室
	6年1組	才谷 瑛一	6年1組教室
	6年2組	隆杉 佳代	6年2組教室
	特別支援学級(知的)	石倉 さゆり	たんぼぼ学級教室

公開授業Ⅱ（国語科・社会科・算数科）

（ 9 : 5 0 ~ 1 0 : 3 5 ）

公開学年	教科領域名	単元・題材名	授業者	会場
1年1組	国語科	『おとうとねずみ チロ』 1ねん1くみチロものがたり	松田 鯉栄	1年1組 教室
1年2組	算数科	ひき算（2） めざせ！ひきざんのたつじん	森口 結香	1年2組 教室
2年1組	国語科	『ニャーゴ』 対話劇をしよう！	多久和沙矢佳	2年1組 教室
2年2組	算数科	かけ算（4） かけ算ワールドへようこそ	中村 恵	2年2組 教室
3年1組	国語科	『サーカスのライオン』 主人公リーフレットで紹介しよう！	島本佳代子	3年1組 教室
4年1組	算数科 (習熟)	『面積（発展）』 どれくらい広いか調べよう	榎田 有香	4年1組 教室
4年1組	算数科 (習熟)	『面積（基礎）』 どれくらい広いか調べよう	石津 誠	算数教室
5年1組	社会科	『自動車をつくる工業』 マツダから MAZDA へ	舛上 敏成	5年1組 教室
5年2組	国語科	『大造じいさんとがん』 語り合おう！椋鳩十のメッセージを	川本美紀子	5年2組 教室
6年1組	社会科	『新しい日本、平和な日本へ』 1964 東京オリンピックから 2020 へ	才谷 瑛一	6年1組 教室
6年2組	算数科	『比例と反比例』 伴って変わる2つの量を調べよう	隆杉 佳代	6年2組 教室
特別支援学級 (知的)	算数科	『時間と時刻』 金魚を買いに行こうプロジェクト	石倉さゆり	たんぼぼ 学級教室

児童発表

（ 1 0 : 5 0 ~ 1 1 : 2 5 ）

- 合唱「語りあおう」「船で行こう！」（6年生児童）
指揮：才谷 瑛一（教諭） 伴奏：石津 誠（教諭）
- 土堂っ子太鼓「絆」（6年生児童）
地域に伝わるベッチャー太鼓をアレンジし、全校児童が継承しています。

開会行事

(11:25～11:45)

主催者挨拶

尾道市教育委員会

尾道市立土堂小学校 校長 佐々木 智彦

尾道市立土堂小学校 研究主任 才谷 瑛一

分科会

(13:15～14:55)

分科会名 (会場)	協議テーマ	指導・助言者
国語科 (体育館)	文学的文章の授業づくり	福岡教育大学 国語教育講座 教授 河野 智文 先生
社会科 (5年1組)	生きる力を育む工業・歴史の授業づくり	広島大学大学院 教育学研究科 教授 木村 博一 先生
算数科 4・6年(1年1組) 1・2年(1年2組) 全体(視聴覚室)	思考力・表現力を高める授業づくり	福岡教育大学 数学教育講座 准教授 岩田 耕司 先生
特別支援教育 (たんぽぽ 学級教室)	特別支援学級の授業づくり	尾道特別支援学校しまなみ分校 小中高等部主事 鬼木 智子 先生

講評

(15:10～15:20)

尾道市教育委員会 教育指導課 豊かな心と体育成係 神原 雅彦 様

講演

(15:20~16:20)

「コミュニティ・スクール これからの学校教育に求められること」

広島大学大学院 教育学研究科 教授 林 武広 先生

MEMO

閉会行事

(16:20~16:30)

閉会挨拶

尾道市立土堂小学校 教頭 中野 智美

学年	内容 (教科)	指導者	教室
1年1組	時計・計算フラッシュ, ます計算 (算数科) 音読, 聞き取り (国語科)	松田 鯉栄	1年1組
算数科 【ねらい】 集中して計算や時計のフラッシュに取り組もうとする態度を育てる。 【児童の実態】 正確に計算したり, 時計を読んだりできるようになってきたが, 時間がかかる児童もいる。		国語科 【ねらい】 はっきりとした発音で音読したり, 集中して聞き取ったりする態度を育てる。 【児童の実態】 集中して聞く態度は身に付いてきたが, 内容を正確に聞き取ることが難しい児童もいる。	
1 フラッシュ ・計算 ・時計 2 ます計算 ・10 ます ・30 ます		留意点 ○テンポよくフラッシュを提示し, 集中して取り組めるようにする。 ○時計フラッシュは, 全員やグループで答えたり, 個人でプリントに書き込んだりする。	留意点 ○音読は, 口を大きく動かして, はっきりと発音することを意識させる。 ○ワークシートを準備し, 聞き取った内容を簡単にメモさせる。

学年	内容 (教科)	指導者	教室
1年2組	音読, 漢字・カタカナフラッシュ (国語科) 百玉そろばん, 計算フラッシュ, ます計算 (算数科)	森口 結香	1年2組
国語科 【ねらい】 テンポよく, 集中して音読や漢字, カタカナに取り組もうとする態度を育てる。 【児童の実態】 大きな声でリズムよく音読しているが, はっきりと口を動かして読むことが難しい。		算数科 【ねらい】 集中して計算に取り組もうとする態度を育てる。 【児童の実態】 10 までの足し算・引き算は定着してきたが, 正確性に欠けている児童も数名いる。	
1 音読 ・五十音 ・早口言葉 ・放浪記 2 フラッシュ ・漢字 ・カタカナ		留意点 ○音読は, 集中してリズムよく音読するために, 読みの形態を工夫する。 ○漢字フラッシュでは, 正しくはっきりと言えらるまで繰り返し言わせる。	留意点 ○集中してより多くの問題に取り組ませるために, テンポよく画面に提示する。 ○問題が終わった児童には, 裏面にある問題に取り組ませる。

学年	内容 (教科)	指導者	教室
2年1組	・音読, 組み合わせた言葉・送りがなフラッシュ (国語科) ・時刻フラッシュ, 掛け算フラッシュ, ます計算 (算数科)	多久和沙矢佳	2年1組
国語科 【ねらい】 口形や発音, 姿勢に気を付けて音読する。 【児童の実態】 意欲的に楽しんで学習に取り組んでいるが, 姿勢が崩れ, 聞き取りにくい音読になることがある。		算数科 【ねらい】 掛け算や時間の既習事項の定着を図る。 【児童の実態】 時計の模型やプリントなどを使い, 継続的に取り組んできた。しかしまだ時間を正確に答えられない児童もいる。	
1 音読 ・お口の体操 ・五十音 ・竹 ・漢詩 ・古文 2 フラッシュ ・組み合わせた言葉 ・送りがな		留意点 ○集中してリズムよく音読するために, 読みの形態を工夫する。 ○フラッシュでは, 正しくはっきりと言わせる。	留意点 ○途切れることなく集中して取り組めるように, テンポよくカードを表示する。 ○自分の目標を意識して取り組ませる。

学年	内容 (教科)	指導者	教室
2年2組	音読, 聞き取り (国語科) 掛け算フラッシュ, ます計算 (算数科)	中村 恵	2年2組
国語科 【ねらい】 正しい姿勢で, 集中して取り組む態度を育てる。 【児童の実態】 姿勢やテンポに気をつけて声を出すことができるが, 集中は持続しにくい。		算数科 【ねらい】 掛け算の理解と計算の習熟を図る。集中して最後まで取り組む態度を育てる。 【児童の実態】 個の目標を持ち, 意欲を持って取り組むことはできるが, 九九を正しく言えない児童もいる。	
1 音読 ・お口の体操 ・五十音 ・竹 ・俳句 2 聞き取り ・説明的文章		留意点 ○集中してリズムよく音読するために, 読みの形態を工夫する。 ○最後まで集中して聞くことができるように, 題材や質問を吟味しておく。	留意点 ○全員が集中して, 途切れることなく取り組めるように, テンポよくカードを提示する。 ○個のめあてを決めて取り組ませる。裏面にも問題を用意しておく。

学年	内容 (教科)	指導者	教室
3年1組	音読, 慣用句フラッシュ, 聞き取り (国語科) 100 ます計算, 単位フラッシュ (算数科)	島本 佳代子	3年1組
国語科 【ねらい】 はっきりと伝わる声で音読したり, 集中して必要な情報を聞き取ったりする態度を育てる。 【児童の実態】 声の大きさ, 速さに気を付けて音読することはできるが, 抑揚や伝える声を意識することは不十分である。		算数科 【ねらい】 自分の目標をもって学習に取り組み, 量感を伴った理解を深めようとする態度を育てる。 【児童の実態】 商と余りの関係や, 量感を伴った単位イメージをもつことに課題がある児童がいる。	
1 音読 ・五十音 ・早口言葉 ・蜘蛛の糸 2 フラッシュ ・慣用句 3 聞き取り ・文学的文章		留意点 ○声の抑揚や伝える声を意識して音読させる。 ○テンポよくフラッシュを提示し, 集中して取り組めるようにする。	
		1 50問割り算 ・あまりのない割り算 ・あまりのある割り算 2 フラッシュ ・単位	
		留意点 ○前回のタイムを振り返らせることで, 意欲的に取り組めるようにする。 ○実感を伴いながら単位をイメージしやすくするために, 身振り手振りを入れて答えさせる。	

学年	内容 (教科)	指導者	教室
4年1組	音読, 聞き取り (国語科) いろいろな四角形・角度フラッシュ, 割り算 (算数科)	槇田 有香	4年1組
国語科 【ねらい】 伝わる声を意識してテンポよく音読し, 集中して学習しようとする態度を育てる。 【児童の実態】 はっきりとした声で音読できるが, 大事なことをメモすることが難しい児童もいる。		算数科 【ねらい】 自分のめあてをもって集中して問題に取り組もうとする態度を育てる。 【児童の実態】 フラッシュ問題は意欲的に取り組むが, 計算問題で集中力や正確性に欠ける児童もいる。	
1 音読 ・落葉松 2 聞き取り ・文学的文章		留意点 ○集中してリズムよく音読するために, 読みの形態を工夫する。 ○聞き取りやすい声で問題文を読む。 ○大事なことを選んでメモするようにさせる。	
		1 フラッシュ ・いろいろな四角形 ・角度 2 割り算12問 ・(3桁) ÷ (1桁) ・(3桁) ÷ (2桁)	
		留意点 ○集中を切らさないようにテンポよく画面を切り替える。 ○前回の記録と比べ, 自分のめあてを持って取り組ませる。 ○問題が終わった児童には, 新しい問題に取り組ませる。	

学年	内容 (教科)	指導者	教室
5年1組	音読, リズム漢字 (国語科) 地理フラッシュ, 都道府県カルタ (社会科)	舛上 敏成	5年1組
国語科 【ねらい】 正しい姿勢で, 集中して取り組もうとする態度を育てる。 【児童の実態】 姿勢やテンポに気を付けて読むことはできるが, はっきりとした発音で読むことに課題がある。		社会科 【ねらい】 主体的に日本の地名や農業・水産業に関する用語の意味を理解しようとする態度を育てる。 【児童の実態】 都道府県名や場所については定着してきているが, 山脈・川などの名称や農業・水産業についての知識が十分定着していない。	
留意点 1 音読 ・五十音 ・平家物語 ・伊勢物語 2 リズム漢字		留意点 1 フラッシュ ・日本地図 (地名) ・農業, 水産業 2 都道府県カルタ	
留意点 ○口形や発音を意識させながら音読させる。 ○読み方の形態を変え, 古文の読み方を工夫して音読させる。		留意点 ○フラッシュは, テンポよく提示し, しっかり声を出させる。 ○都道府県カルタは, 地方を指定し, ペアで取り組ませる。	

学年	内容 (教科)	指導者	教室
5年2組	音読, 聞き取り (国語科) 100問割り算, フラッシュ (算数科)	川本 美紀子	5年2組
国語科 【ねらい】 詩や古文に応じた読み方を工夫して, 音読したり, 正確に文章を聞き取ったりする態度を育てる。 【児童の実態】 詩や古文をリズムよく音読することができる。正しく聞き取ることはまだ十分でない。		算数科 【ねらい】 主体的に学習に参加し, 集中して計算に取り組もうとする態度を育てる。 【児童の実態】 自己の目標を決めて意欲的に取り組む児童が多い。倍数や通分の理解には差がある。	
留意点 1 音読 ・五十音 ・学問のすゝめ ・草枕 2 聞き取り ・説明的文章		留意点 1 100問割り算 2 フラッシュ ・倍数 ・通分	
留意点 ○読み方の形態を変え, テンポよく音読させる。 ○説明的文章を正確に聞き取り, 時間を制限して要約させる。		留意点 ○自己の目標を決めて, 意欲的に問題に取り組ませる。 ○形態を変えてフラッシュを言わせる。 ○あいまいな問題は繰り返し行い, 定着を図る。	

学年	内容 (教科)	指導者	教室				
6年1組	100問割り算, プリント, フラッシュ (算数科) カルタ, 歴史・世界遺産・権利フラッシュ (社会科)	才谷 瑛一	6年1組				
<table border="1"> <tr> <td>科</td> <td>社会科</td> </tr> <tr> <td> <p>【ねらい】 主体的に学習に参加し, 集中して計算に取り組もうとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 分数の乗法と除法の計算, 数量関係の問題につまずく児童が多い。</p> </td> <td> <p>【ねらい】 主体的に歴史的な出来事や人物の働きを理解しようとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 進んで歴史人物を覚えているが, 歴史人物の業績や歴史的な出来事の知識の定着が低い。</p> </td> </tr> </table>		科	社会科	<p>【ねらい】 主体的に学習に参加し, 集中して計算に取り組もうとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 分数の乗法と除法の計算, 数量関係の問題につまずく児童が多い。</p>	<p>【ねらい】 主体的に歴史的な出来事や人物の働きを理解しようとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 進んで歴史人物を覚えているが, 歴史人物の業績や歴史的な出来事の知識の定着が低い。</p>		
科	社会科						
<p>【ねらい】 主体的に学習に参加し, 集中して計算に取り組もうとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 分数の乗法と除法の計算, 数量関係の問題につまずく児童が多い。</p>	<p>【ねらい】 主体的に歴史的な出来事や人物の働きを理解しようとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 進んで歴史人物を覚えているが, 歴史人物の業績や歴史的な出来事の知識の定着が低い。</p>						
<table border="1"> <tr> <td> <p>1 100問割り算</p> <p>2 プリント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分数の乗法と除法 <p>3 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図形の定義 ・割合 ・比 </td> <td> <p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○100問割り算は, 時間を計り, 前回の記録更新を目指させる。 ○プリントは, 20秒ごとにテンポよく行う。 ○フラッシュは, テンポよく提示し, しっかり声を出させる。 </td> </tr> </table>		<p>1 100問割り算</p> <p>2 プリント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分数の乗法と除法 <p>3 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図形の定義 ・割合 ・比 	<p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○100問割り算は, 時間を計り, 前回の記録更新を目指させる。 ○プリントは, 20秒ごとにテンポよく行う。 ○フラッシュは, テンポよく提示し, しっかり声を出させる。 	<table border="1"> <tr> <td> <p>1 歴史カルタ</p> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史人物 ・世界遺産 ・権利と義務 </td> <td> <p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歴史カルタは, 人物名, 3ヒントの順に読む。 ○カルタを片付ける間に, 歴史人物を答えさせる。 ○フラッシュは, テンポよく提示し, しっかり声を出させる。 </td> </tr> </table>		<p>1 歴史カルタ</p> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史人物 ・世界遺産 ・権利と義務 	<p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歴史カルタは, 人物名, 3ヒントの順に読む。 ○カルタを片付ける間に, 歴史人物を答えさせる。 ○フラッシュは, テンポよく提示し, しっかり声を出させる。
<p>1 100問割り算</p> <p>2 プリント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分数の乗法と除法 <p>3 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図形の定義 ・割合 ・比 	<p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○100問割り算は, 時間を計り, 前回の記録更新を目指させる。 ○プリントは, 20秒ごとにテンポよく行う。 ○フラッシュは, テンポよく提示し, しっかり声を出させる。 						
<p>1 歴史カルタ</p> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史人物 ・世界遺産 ・権利と義務 	<p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歴史カルタは, 人物名, 3ヒントの順に読む。 ○カルタを片付ける間に, 歴史人物を答えさせる。 ○フラッシュは, テンポよく提示し, しっかり声を出させる。 						

学年	内容 (教科)	指導者	教室				
6年2組	音読, 聞き取り (国語科) 100問割り算, 比・比例フラッシュ (算数科)	隆杉 佳代	6年2組				
<table border="1"> <tr> <td>国語科</td> <td>算数科</td> </tr> <tr> <td> <p>【ねらい】 詩や古文に応じた読み方を工夫して音読し, 正確に文章を聞き取ろうとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 詩や古文を理解し音読を工夫することが難しく, 聞き取りの力に個人差がある。</p> </td> <td> <p>【ねらい】 自分の目標に向かって主体的に学習に取り組み, 比や比例についての理解を深めようとする態度を養う。</p> <p>【児童の実態】 自己目標を決めて意欲的に取り組む児童がいるが, 比の理解に差がある。</p> </td> </tr> </table>		国語科	算数科	<p>【ねらい】 詩や古文に応じた読み方を工夫して音読し, 正確に文章を聞き取ろうとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 詩や古文を理解し音読を工夫することが難しく, 聞き取りの力に個人差がある。</p>	<p>【ねらい】 自分の目標に向かって主体的に学習に取り組み, 比や比例についての理解を深めようとする態度を養う。</p> <p>【児童の実態】 自己目標を決めて意欲的に取り組む児童がいるが, 比の理解に差がある。</p>		
国語科	算数科						
<p>【ねらい】 詩や古文に応じた読み方を工夫して音読し, 正確に文章を聞き取ろうとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 詩や古文を理解し音読を工夫することが難しく, 聞き取りの力に個人差がある。</p>	<p>【ねらい】 自分の目標に向かって主体的に学習に取り組み, 比や比例についての理解を深めようとする態度を養う。</p> <p>【児童の実態】 自己目標を決めて意欲的に取り組む児童がいるが, 比の理解に差がある。</p>						
<table border="1"> <tr> <td> <p>1 音読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論語 ・群読 ・枕草子 <p>2 聞き取り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明的文章 </td> <td> <p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○読み方の形態を変え, 古文の読み方を工夫して音読させる。 ○説明的文章を正確に聞き取り, 要約できるようにさせる。 </td> </tr> </table>		<p>1 音読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論語 ・群読 ・枕草子 <p>2 聞き取り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明的文章 	<p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○読み方の形態を変え, 古文の読み方を工夫して音読させる。 ○説明的文章を正確に聞き取り, 要約できるようにさせる。 	<table border="1"> <tr> <td> <p>1 100問割り算</p> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・比 ・比例 <p>3 プリント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・比 </td> <td> <p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自己目標を決めて, 意欲的に問題に取り組みさせる。 ○形態を変えてフラッシュを言わせる。 ○フラッシュで自信を付け, プリントをさせる。 </td> </tr> </table>		<p>1 100問割り算</p> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・比 ・比例 <p>3 プリント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・比 	<p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自己目標を決めて, 意欲的に問題に取り組みさせる。 ○形態を変えてフラッシュを言わせる。 ○フラッシュで自信を付け, プリントをさせる。
<p>1 音読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論語 ・群読 ・枕草子 <p>2 聞き取り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明的文章 	<p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○読み方の形態を変え, 古文の読み方を工夫して音読させる。 ○説明的文章を正確に聞き取り, 要約できるようにさせる。 						
<p>1 100問割り算</p> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・比 ・比例 <p>3 プリント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・比 	<p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自己目標を決めて, 意欲的に問題に取り組みさせる。 ○形態を変えてフラッシュを言わせる。 ○フラッシュで自信を付け, プリントをさせる。 						

学年	内容 (教科)	指導者	教室				
特別支援学級 (知的)	計算, 聞き取り, 計算フラッシュ (算数科) 音読, 反対言葉, 一文解読 (国語科)	石倉さゆり	たんぽぽ				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>算数</th> <th>国語</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <p>【ねらい】 主体的に学習に参加し, 集中して計算に取り組もうとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 集中して聞き続けたり, 見続けたりすることは簡単なことではない。</p> <p>1 聞き取り</p> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足し算 (繰り上がりなし) ・引き算 (繰り下がりなし) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> <p style="text-align: center;">留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○聞き取りでは, 正確に聞き取らせる。 ○習熟に応じた問題を出題する。 </div> </td> <td> <p>【ねらい】 リズムよく音読をし, 言葉の意味や文章を理解する。</p> <p>【児童の実態】 言葉がはっきりしなかったり, 尋ねられたことは違うことを答えたりする。</p> <p>1 詩の音読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あえいうえおあお <p>2 反対言葉</p> <p>3 一文聞き取り</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> <p style="text-align: center;">留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リズム良く読ませる。 ○はっきり読ませる。 ○文の構成を理解させながら聞かせる。 </div> </td> </tr> </tbody> </table>		算数	国語	<p>【ねらい】 主体的に学習に参加し, 集中して計算に取り組もうとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 集中して聞き続けたり, 見続けたりすることは簡単なことではない。</p> <p>1 聞き取り</p> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足し算 (繰り上がりなし) ・引き算 (繰り下がりなし) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> <p style="text-align: center;">留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○聞き取りでは, 正確に聞き取らせる。 ○習熟に応じた問題を出題する。 </div>	<p>【ねらい】 リズムよく音読をし, 言葉の意味や文章を理解する。</p> <p>【児童の実態】 言葉がはっきりしなかったり, 尋ねられたことは違うことを答えたりする。</p> <p>1 詩の音読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あえいうえおあお <p>2 反対言葉</p> <p>3 一文聞き取り</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> <p style="text-align: center;">留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リズム良く読ませる。 ○はっきり読ませる。 ○文の構成を理解させながら聞かせる。 </div>		
算数	国語						
<p>【ねらい】 主体的に学習に参加し, 集中して計算に取り組もうとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 集中して聞き続けたり, 見続けたりすることは簡単なことではない。</p> <p>1 聞き取り</p> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足し算 (繰り上がりなし) ・引き算 (繰り下がりなし) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> <p style="text-align: center;">留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○聞き取りでは, 正確に聞き取らせる。 ○習熟に応じた問題を出題する。 </div>	<p>【ねらい】 リズムよく音読をし, 言葉の意味や文章を理解する。</p> <p>【児童の実態】 言葉がはっきりしなかったり, 尋ねられたことは違うことを答えたりする。</p> <p>1 詩の音読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あえいうえおあお <p>2 反対言葉</p> <p>3 一文聞き取り</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> <p style="text-align: center;">留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リズム良く読ませる。 ○はっきり読ませる。 ○文の構成を理解させながら聞かせる。 </div>						

第1学年1組(23名) 国語科「いろいろなおはなしをよもう『おとうとねずみ チロ』」

1ねん1くみ チロものがたり ~みんな「チロになあれ!」~

指導者 松田 鯉栄

1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第1学年及び第2学年の「C読むこと」の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

- (1) ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。
ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読すること。

(1) 単元観

本単元では、学習指導要領「C読むこと」の言語活動例「ア本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと」を具体化した「チロの様子や気持ちが書かれている語句や会話文、挿絵に着目させ、チロの気持ちを想像しながらふき出しに書かせたり、チロになりきって音読させたりしながら、クラス全員でチロの心の声を入れたオリジナルの物語を作る。」という言語活動を位置付ける。チロになりきって会話文を読んだり、その時の様子や気持ちを想像して書いたり、話したりする活動を通して、お話を楽しんで読むことをねらいとしている。

本教材は、兄弟の中で最も幼いチロが、誰の助けも借りずに心配事を乗り越え、おばあちゃんと心を通わせていく物語である。チロが「おとうとねずみ」であることは、1年生の児童にとって共感を呼び、同化しやすく、親近感をもちやすい。この物語は、主人公チロの気持ちが行動や会話に明確に描かれているので、チロの気持ちが分かりやすい展開になっている。チロになったつもりで、会話文を音読したり、その時の気持ちを想像したり、行動を動作化したりしながら、物語の叙述を注意深く読み、場面の様子を豊かに想像する力を養うことができる考える。

(2) 児童観

児童は、ブックトラックの本を朝の読書タイムや休憩時間などに意欲的に読んでいる。しかし、ページをめくるだけの児童や絵だけを見て終わってしまっている児童もいる。1学期から物語や詩などの音読を継続的に行ってきた。登場人物の気持ちを想像しながら音読ができるようになった児童は、20名である。

思考力・表現力の実態

「読むこと」に関しては、6月の「かいがら」、7月の「おおきななぶ」で、それぞれの場面の様子や登場人物の行動、気持ちを想像しながら読む学習を行った。ほとんどの児童が、登場人物になりきって読むことができた。しかし、登場人物の行動や気持ちを想像する学習では、自分の思いが大きくなりすぎて、教材文から離れてしまい、叙述に即して読むということに課題が見られた。また、文字を追うことに精一杯で、登場人物に同化して気持ちを想像することが難しい児童もいた。

これまでの学習で、登場人物の気持ちを想像して、ふき出しに短い文章で書くことができるようになった児童は、21名である。お互いの考えをペアや全体で話し合う時には、自分の書いた内容を述べることは意欲的に行うが、友達のことを聞いて自分の考えに生かすというまでは至っていない。

(3) 指導観

場面ごとの挿絵や登場人物の行動や会話文を書いたカードを並べ替える学習を行い、「だれが」「いつ」「何をしたか」を確かめながら読み進め、お話の大体をつかませる。チロの行動や会話文に焦点を当て、チロに同化させることで、登場人物の気持ちを想像する力を付けたい。毎時間に学習した内容を音読につなげ、第三次の「1ねん1くみチロものがたり」の発表につなげていくことで、児童の学習意欲を高めたい。

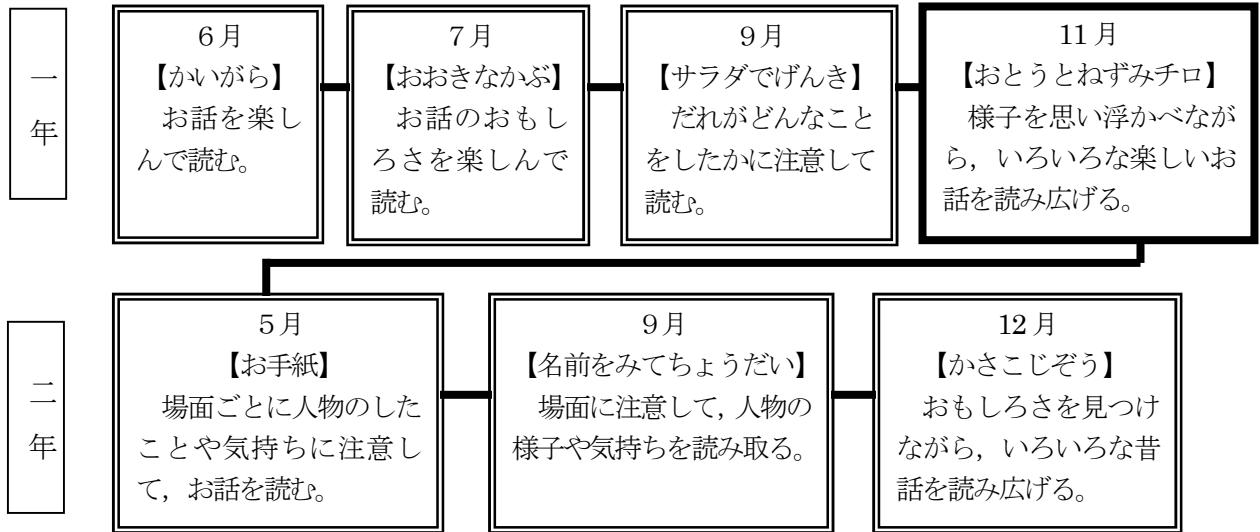
お話の内容を捉え、登場人物の様子や気持ちを想像するために、挿絵や「チロのハッピーメーター」を活用して読ませる。挿絵のチロの表情、様子などに着目したり、ハッピーメーターを操作してチロの気持ちを視覚的に表現したりすることで、叙述の内容をより明確に捉えて、自分の考えをまとめさせたい。また、チロの心情につながる叙述は、短冊に書いて提示したり、教科書の叙述にサイドラインを引かせたりしながら、一人一人が正しく読み取れるようにしていく。

児童の発表内容が散漫にならないように、考えさせたい「重要な会話文」を選択し、その時のチロの気持ちを想像して、ふき出しに書かせる。ふき出しに書いた自分の思いを発表したり、自分のハッピーメーターについて説明したりする場を設定して、自分の考えを相手に正確に伝える力を身に付けさせたい。また、自分の考えと「同じところ」「似ているところ」「違うところ」を意識して友達のことを聞きながら聞くことで、自分の考えを深めさせたい。

(4) 単元でめざす児童の姿

- 場面の様子を想像しながら、お話を楽しんで読もうとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- 場面の様子やチロの気持ちを想像しながら読んでいる。(読むこと)

2 領域「読解」の系統



3 単元の評価規準

	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	場面の様子を想像しながら、お話を楽しんで読もうとしている。	チロになりきって音読したり、動作化したり、ふき出しに書いたりしながら、場面の様子やチロの気持ちを豊かに想像して読んでいる。	長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」、「を」を文の中で正しく使っている。

4 指導計画 (全8時間)

次	学習活動	めざす児童の姿
一	全文を読んで、お話の大体をつかむ。(1)	場面の様子を想像しながら、お話を楽しんで読もうとしている。 【関・意・態】(行動観察・発言)
二	おばあちゃんからの手紙の内容と「チロのはいよ。」と言われた時のチロの様子や気持ちを読み取る。(2) (P54～ P57)	手紙の内容を読み取り、嬉しさが不安に変わっていくチロの気持ちを想像し、表現している。 【読む・言語】(ワークシート・行動観察・発言)
	丘のてっぺんの木に立ち、おばあちゃんに呼びかけるチロの様子や気持ちを読み取る。(2) (本時5/8) (P57～ P61)	チロの考えた「いいこと」を読み取り、丘のてっぺんの木から呼びかけるチロの様子や気持ちを想像し、表現している。 【読む・言語】(ワークシート・行動観察・発言)
	小包が届いた後のチロの嬉しさとおばあちゃんへの感謝の気持ちを読み取る。(1) (P61～ P62)	チロのおばあちゃんへの感謝の気持ちを想像し、表現している。 【読む・言語】(ワークシート・行動観察・発言)
三	グループごとに、チロの言葉(ふき出し)の整理をして、発表の練習をする。(1) 「1ねん1くみチロものがたり」発表会をする。(1)	学習したことをもとに、場面の様子を想像しながら、楽しんで、読んでいる。 【読む】(行動観察・発表)

5 本時の展開

(1) 本時の目標

1 番大事な事を言った時のチロの様子や気持ちを想像しながら読むことができる。

(2) 観点別評価規準

丘のてっぺんの木から呼びかけるチロの様子や気持ちを想像し、表現している。【読むこと】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) と支援 (◆)	評価規準 (評価方法)
1 前時の学習を想起する。	○ 「そうだ、いいことかんだ。」と言ったチロの様子や気持ちを想像しながら音読する。 ○ チロの声が繰り返し響きながらだんだん遠くなっていったことを思い出させる。	
2 本時の課題を確認し、音読する。	「いちばんだいじなこと」をいったときのチロになろう。	
3 叙述をもとに、チロの様子を確かめる。	○ 「ぼくのこえがとんでった。」「うれしがって」「とびはねる」の言葉に着目させ、挿絵で確認させたり、動作化させたりする。 ○ 「こえをはり上げる」の意味を経験とつなげながら理解させ、張り切っているチロの気持ちを捉えさせる。 ○ 「いちばんだいじなこと」を押さえ、チロが1番大きな声で言った言葉が、1番言いたいことであることを明確にする。	
4 「いちばんだいじなこと」を言ったチロの気持ちを想像する。	○ 「あんでね。」の声が消えてしまうまで、じっと耳をすましていたチロの様子から、チロの気持ちを想像し、「チロのハッピーメーター」を操作する。 ○ 「チロのハッピーメーター」をもとに、「ぼくにもチョッキ、あんでね。」と言った時のチロの気持ちを想像し、ペアや全体で考えを交流する。 ◆ 登場人物の心情を想像するための手がかりとして、挿絵を拡大して黒板に掲示したり、「チロのハッピーメーター」を操作させたりする。	○ 丘のてっぺんの木から呼びかけるチロの様子や気持ちを想像し、表現している。 【読む】 (ワークシート・行動観察・発言)
5 友達の考えを取り入れ、自分の考えをまとめる。 (評価問題)	○ 「ぼくにもチョッキ、あんでね。」と言った時のチロの心の声を想像して、ふき出しに書く。 ○ おばあちゃんちは遠いから、ぼくの声が届くかな。心配だなあ。 ○ 大きく口を開けて言ったから、「あんでね。」の声は必ずおばあちゃんちへ届くよ。 ○ ぼくの声が届きますように。おばあちゃん、ぼくのチョッキも編んでね。 ○ おばあちゃん、「あんでね。」の声は聞こえたよね。もう、安心だ。チョッキが届くのが楽しみだなあ。 ○ 兄さん、姉さんと一緒に早くチョッキを着たいよ。しましまのチョッキだといいな。	
6 学習したことを生かして、音読する。	○ おばあちゃんへのお願いを伝えたチロの様子や気持ちを想像しながら、音読させる。	
7 振り返りをする。	○ 本時の学習を振り返らせ、振り返りカードに書かせる。	

めざせ！ひきざんのたつじん

指導者 森口 結香

1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領1学年の「A数と計算」「D数量関係」の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

- A (2) 加法及び減法の意味について理解し、それらを用いることができるようにする。
 イ 1位数と1位数との加法及びその逆の減法の計算の仕方を考え、それらの計算が確実にできること。
 D (1) 加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。

(1) 単元観

本単元までに、児童は、「ひきざん(1)」では、減法の意味(求残と求補、求差)を、「たしざん(2)」では、1位数と1位数の加法で繰り上がりのある計算の仕方やその意味について学習してきた。本単元では、「たしざん(2)」と同様に、ブロックを操作する活動などを通して「10とあといくつ」と考えることによって筋道を立てて計算の仕方を説明することができるようにする。繰り下がりのある減法の学習はこれが初めてである。繰り下がりのある計算の考え方には、被減数分解による方法である減加法と減数分解による方法である減々法がある。児童はいろいろなやり方で繰り下がり減法ができることを見付け、それらを整理していくことで、減加法や減々法などの計算の仕方があることを知り、繰り下がり減法の計算の仕方を一般化していく。その中でも、減加法は十進法がもとになっており上学年での筆算にもつながる。そのため、減加法の考え方と計算の手順の理解とその習熟を確実にしていきたい。

(2) 児童観

本学級の児童は、学習に対して意欲的に取り組んでいる児童が多く、「算数の学習が好き」と答えた児童は22名いる。また、操作活動についても「役に立っている」と感じている児童が21名おり、操作することで算数が好きになったり、計算の手段と考えていたりしていることが分かる。しかし、問題から立式し、式からブロック操作をしたり図を描いて考えたりする際、10の合成・分解をもとに計算できにくい児童が5名いる。

思考力・表現力の実態

たし算の際、具体物から数図ブロックの操作、操作の言葉による表現まではほとんどの児童ができる。しかし、そこから式や図と結び付けることが難しい児童が5名いる。一方、10のまとまりをつくり、順序よく説明できている児童は10名いる。

ペアや全体で話し合いをする時、ブロック操作をしながら考えを説明し合ったり、相手の説明する通りにブロックを操作したりする活動を取り入れてきた。しかし、筋道を立てて分かりやすく話したり、友達の発表を自分の考えと比べながら聞いたりする力は十分ではない。

(3) 指導観

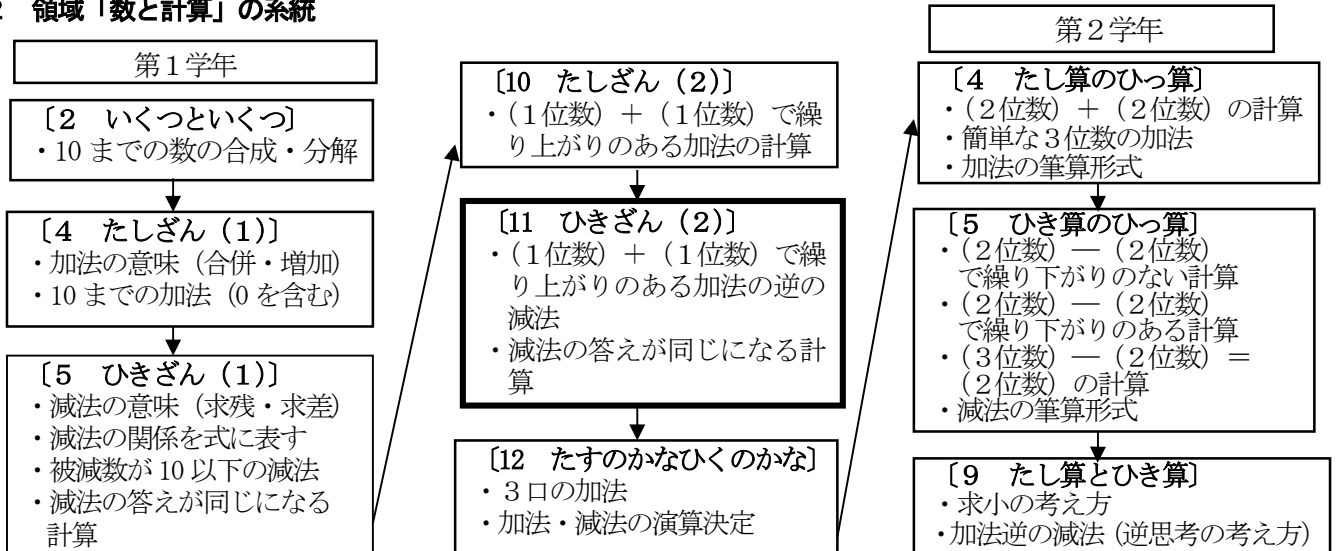
本単元では、問題提示の後、今までの類似点・相違点を見付け児童に課題を認識させていく。自力解決の際には、これまで学習してきた加減計算や20までの数の学習をもとに計算の仕方を考えていく場を設定し、ブロック操作しながら計算方法を考え、操作したことを言葉や数、式、図などに表すようにする。また、問題をたまごを使う場面に設定し、10こ入りのたまごパックから、10のまとまりの意識を高める。

集団解決の場面では、自力解決で考えたことを発表し合うことによって、お互いの求め方のよさに気づき、「数え引き」、「補加法」、「減加法」、「減々法」などいろいろな考え方があることを理解させる。自分の考えを他の考えと比較し、自分の立場をはっきりとさせる場を設けることで、それぞれの考えを振り返り、よさを見付けさせる。その結果、「10のまとまり」から引くことのよさに気付かせる。その上で、場面に応じて自分自身で考えやすい計算方法を選んでいくようにさせる。また、計算の仕方を理解し、より相手意識をもった説明ができるように、計算の説明に関するキーワードや順序を表す言葉を掲示しておき、相手に分かるように伝えることを意識できるようにさせる。

(4) 単元でめざす児童の姿

- 繰り下がりのある減法の計算の仕方を、具体物や言葉、式、図を用いて表現して考えている。(数学的な考え方)
 ○ (十何) - (1位数) の減法で、10のまとまりに着目することで、繰り下がりのある計算の意味やその方法を理解している。(知識・理解)

2 領域「数と計算」の系統



3 単元の評価規準

	関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
単元の評価規準	(十何)ー(1位数)の減法で、繰り下がりのある計算に進んで取り組み、その計算の仕方を考えようとしている。	繰り下がりのある減法の計算の仕方を、具体物や言葉、式、図を用いて表現して考えている。	(十何)ー(1位数)の減法で、繰り下がりのある計算が正しくできる。	(十何)ー(1位数)の減法で、10のまとまりに着目することで、繰り下がりのある計算の意味やその方法を理解している。

4 指導計画(全12時間)

次	学習活動	めざす児童の姿
一 くりさがりのあるひきざん	問題が、減法の用いられる場面であることに気づき、繰り下がりのある減法の計算の仕方を考える。(1) (本時1/12)	問題場面が、減法の場面であることを理解している。 【知・理】(行動観察) 減加法や減々法などの計算の仕方を、具体物や図を使って表現し考えている。 【考え方】(ノート)
	減加法での計算の仕方を図と式を関連させて説明する。 繰り下がりのある減法の計算をする。(1)	減加法の計算の仕方を、具体物や言葉、式、図を用いて表現し考えている。 【考え方】(ノート) 減加法の計算ができる。 【技能】(ノート)
	減々法の計算の仕方を考える。 減々法を使って、繰り下がりのある減法の計算練習をする。(1)	減々法の計算の仕方を具体物や言葉、式、図を用いて表現し、考えている。 【考え方】(ノート) 減々法の計算ができる。 【技能】(ノート)
	減法のいろいろな計算の仕方を考え計算の仕方を考える。(1)	減法のいろいろな計算方法を工夫している。 【考え方】(ノート)
	減法のいろいろな計算の仕方を考え計算の仕方を説明する。(1)	減法のいろいろな計算方法を工夫している。 【考え方】(ノート)
	減加法と減々法で繰り下がりのある減法の計算練習をする。(1)	減加法と減々法で繰り下がりのある減法の計算が正しくできる。 【技能】(ノート)
	減法が用いられる場面であることに気づき、立式して答えを求める。(1)	式と具体的な場面を結び付け、減法が適用される場面であることを判断している。 【考え方】(ノート)
	問題作りの活動を通して、減法の意味を確かめ、式と具体的な場面を結び付ける。(1)	いろいろな減法の問題場面を想起し、進んで問題作りに取り組むことができる。【関・意・態】(ノート、行動観察)
二 カードれん	繰り下がりのある減法のカードを作って練習をする。(1)	繰り下がりのある減法の計算が正しくできる。 【技能】(ノート)
	カードを使ってゲームをする。 楽しく遊びながら、計算力を高める。(1)	意欲的にゲームに取り組もうとしている。 【関・意・態】(行動観察)
	答えが同じになるカードを集め、被減数と減数の関係に気付く。(1)	1つの数をいろいろな数の差としてとらえている。 【考え方】(ノート)
三 だめか	既習事項の確かめをする。 絵を見て、文章題の意味を正しくとらえ、立式する。(1)	文や絵から、どんな場面なのかを判断している。 【考え方】(ノート)

5 本時の展開

(1) 本時の目標

12－9について、減法のいろいろな計算の仕方を考える。

(2) 観点別評価規準

○問題場面が、減法の場面であることを理解している。

【知識・理解】

◎減加法や減々法などの計算の仕方を具体物や言葉、式、図を用いて表現し考えている。

【数学的な考え方】

(3) 準備物

問題掲示用の拡大図、ブロック

(4) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) と支援 (◆)	評価規準 (評価方法)
1 問題を提示する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> たまごが12こあります。ケーキを作るのに9こ使うと、のこりはなんこですか。 </div>	○ 問題場面が、減法の場面であることを理解している。 【知識・理解】(観察)
2 本時のめあてを確認する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 12－9の計算の仕方を考えよう。 </div>	
3 見通しをもたせる。	○ 初めて学習する繰り下がりのある減法の計算の仕方を、これまで学習した加減計算の仕方から考えられることに気付かせ、見通しをもたせる。	
4 12－9の計算の仕方を考える。	○ 数図ブロックや図、式を使って、自分の考えをまとめさせる。 ◆ 自分の考えを図に表すことが難しい児童には、○図が描かれたヒントカードを渡す。	
5 12－9の計算の仕方をペアで話し合う。	○ 自分の考えについて、図やブロックを使って自分の言葉で表現させるようにする。	
6 12－9の計算の仕方を全体で話し合う。	○ 自分の考えと同じところや違いに気付かせる。 ◆ 児童が発表した説明が他の児童にも分かるようにするために、黒板に描かれた図と言葉が対応するよう、教師がキーワードになる言葉を書き加える。 ○ 児童らの考えた方法に分かりやすいネーミングをつけて、次時につなげる。	
7 まとめをする。	○ どの方法も認め、正しく計算できることを押さえた上で、減加法と減々法は10といくつに分けて考えていることに気付かせる。	○ 減加法や減々法などの計算の仕方を具体物や言葉、式、図を用いて考えている。 【考え方】(ノート)
8 練習問題を解く。 (評価問題)	ひくたす作戦、ひくひく作戦、かぞえひき作戦を使って計算ができる。 ○ 既習事項を使って、他の数でも計算できるか考える。	
9 振り返りをする。		

対話劇をしよう！～たまおじさんと子ねずみの台詞を考えて～

指導者 多久和 沙矢佳

1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第1学年及び第2学年の「C読むこと」の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

- (1) ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。
オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。

(1) 単元観

本単元では、オリジナルの台詞を入れた台本を作り、対話劇を発表する活動を通して、読み取った場面の様子や登場人物の気持ちが伝わるように表現する力を付けることをねらいとしている。対話劇の台本を作る活動を通して、出来事や順序に気を付け、場面の様子や登場人物に気持ちを想像しながら読むことができると考えた。

本教材「ニャーゴ」は、子ねずみを食べようとする猫のたまと、猫の恐ろしさを知らない三匹の子ねずみが登場人物の中心となっている。三匹の子ねずみが無邪気に、また親切にたまに接することで、その優しさが天敵であるたまの心に変化を与え、結果たまは子ねずみを食べずに別れる。優しさや思いやりの心は、相手に伝わるのだと感じさせてくれる作品である。

この物語は5つの場面からなり、場所や人物の言動の変化を手がかりに展開をとらえやすい。叙述や登場人物の会話、挿絵などを手がかりに場面の様子をとらえさせ、自分の知識や経験と関連付ける活動を通して、自分の思いや考えをまとめる。対話劇をすることで、発表し合う時に、より一層相手を意識した話し方・聞き方ができると考える。

(2) 児童観

5月教材「お手紙」では、場面ごとに人物の様子や気持ちを押さえながら読み、読み取った登場人物の気持ちが表れるように音読する学習を行った。23名の児童が登場人物の様子や気持ちを想像を広げながら読み、音読に表現することができた。

思考力・表現力の実態

児童は、書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読むことはできる。しかし、叙述に即した場面の様子や登場人物の気持ちの変化を想像し、自分の考えをまとめることができる児童は17名である。自分で読み取った内容と自分の経験を関連付けて自分の考えをまとめ、表現することが課題である。

(3) 指導観

「対話劇をしよう」という言語活動を設定し、場面ごとに登場人物の行動を中心に気持ちを想像し、自分の考えをまとめながら台本に台詞を書かせる。そして、台本を発表し合うことで、感じ方や考え方を認め合い、読みの世界を広げたい。

物語の内容を捉えさせるために挿絵や登場人物の様子、会話を手がかりとして読ませ、比較したり、理由を考えたりする活動を通して読みを深めさせる。

また、場面の様子について想像を広げて読むために、自分が登場人物だったらどのように思うかを問い、自分自身の経験や知識をもとに登場人物の気持ちを想像し、台詞を考えさせる。そして、まず、グループでお互いの考えを出し合い、友達の考えを聞いてさらに自分の考えを深め、それから、全体の場で表現できるようにさせたい。

(4) 単元でめざす児童の姿

- 対話劇をすることに興味を持ち、意欲を持って読もうとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- 文章の内容と自分の経験とを関連付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表しようとしている。(読むこと)

2 領域「読解」の系統



3 単元の評価規準

	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	物語を読んでお気に入りの場面を見付けたり、お話の楽しさを対話劇で表現したりしている。	登場人物の行動を中心に想像を広げながら読み、自分の思いや考えをまとめている。	物語を読み、想像したことなどから登場人物の台詞を書き加えている。

4 指導計画（全11時間）

次	学習活動	めざす児童の姿
一	対話劇の発表会をするまでの見通しを持たせてから教材文を紹介する。(1)	物語に興味を持ち、対話劇での発表に進んで取り組もうとしている。 【関・意・態】(行動観察)
二	子ねずみたちとねこが出会った時の様子を読み取り、気持ちを想像して、台本を作る。(2) (P120～P122L8)	子ねずみたちの無邪気さとそれに対するねこの戸惑いの気持ちを読み取り、台詞を書いている。 【読む・言語】(ワークシート・台本)
	子ねずみたちとねこが一緒に桃を取りに行く時の様子を読み取り、気持ちを想像して、台本を作る。(2) (P122L9～P125L2)	子ねずみとねこが一緒に桃を食べているときの気持ちを読み取り、台詞を書いている。 【読む・言語】(ワークシート・台本)
	ねこが子ねずみを食べようとした時の様子を読み取り、気持ちを想像して、台本を作る。(2) (P125L3～P127L4)	子ねずみたちの優しさと、それに触れた時のねこの気持ちを読み取り、台詞を書いている。 【読む・言語】(ワークシート・台本)
	ねこが子ねずみたちを食べずに帰って行った時の様子を読み取り、気持ちを想像して台本を作る。(2)(本時8/11) (P127L5～P127L13)	子ねずみたちを食べずに帰って行ったねこの気持ちを読み取り、台詞を書いている。 【読む・言語】(ワークシート・台本)
三	自分が作った台本をもとに、対話劇をする。(2)	自分の作った台本をもとに対話劇をし、友達に発表したり、友達の発表を自分の台詞と比べながら聞いたりしている。 【読む】(ワークシート)

5 本時の展開

(1) 本時の目標

子ねずみたちを食べずに桃を大事そうに抱えて帰ったねこの気持ちを想像して、自分の考えや思ったことをまとめることができる。

(2) 観点別評価規準

叙述をもとに場面の様子を読み取り、「ニャーゴ」と小さな声で答えて帰って行ったたまの気持ちを想像し、自分の考えたことや思ったことをまとめている。【読むこと】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) と支援 (◆)	評価規準 (評価方法)
1 前時までの学習を想起する。	○ 単元計画を確認し、これまでに学習してきた場面の台本を読み合う。	
2 本時の課題を確認し、学習場면을音読する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> たまと子ねずみが別れる場面のたまの気持ちを想像して台本を作ろう。 </div>	
3 なぜたまが子ねずみたちを食べずに桃を大事そうに抱えて帰ったのかを全体で話し合う。	○ 普通のねことねずみの関係は、「食べる一食べられる」の関係であることを確認させる。 ○ 子ねずみたちの台詞の後、ももを「かかえて」から「だいじそうにかかえたまま」に変わっていることに着目させる。 ○ 最後の場面の挿絵で、たまの目から涙が出ていることに気付かせる。 ○ ワークシートに自分の考えを書き、なぜそう思ったのかをまとめさせる。 ◆ 前時までのノートやワークシートを見て、たまの気持ちの変化について考えさせる。	
4 「ニャーゴ」と小さな声で答えたときのたまの気持ちを想像し、まとめる。(評価問題)	○ それまでの場面で言っている「ニャーゴ」との違いについて考えさせる。 ○ 「食べようとしてごめんな。またももとりに行こうな。」 ○ 「自分の分のおみやげまでくれるなんて、とてもやさしい子ねずみだな。」 ○ 「また、いっしょにももをとりにいこうな。」 ○ 「おれの子どものことまで考えてくれてありがとう。子どもたちもきっとおよろこびだよ。」	○ 「ニャーゴ」と小さな声で答えて帰って行ったたまの気持ちを想像し、自分の考えたことや思ったことをまとめている。 【読む】(ワークシート)
5 台本を持ち寄りグループで交流する。	○ ワークシートに書いた台詞を班で発表し合い、交流する。	
6 次時の確認と振り返りをする。	○ 振り返り際には友達の手紙を聞いて考えたことや、台詞をどのように読みたいかを書くようにさせる。 ○ 次時ではニャーゴの台本を完成させることを伝える。	

かけ算ワールドへようこそ

指導者 中村 恵

1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第2学年の「A数と計算」の内容に基づき設定した。学習指導要領には以下のように示されている。

A (3) 乗法の意味について理解し、それをを用いることができるようにする。

イ 乗法に関して成り立つ簡単な性質を調べ、それを乗法九九を構成したり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。

エ 簡単な場合について、2位数と1位数との乗法の計算の仕方を考えること。

(1) 単元観

児童は、「かけ算(1)」では乗法の意味を、「かけ算(2)」と「かけ算(3)」では、1～9の段までの乗法九九を学習している。本単元では、それらの乗法九九を表にまとめたり、かけ算ゲームに親しむ活動を通して、乗法のきまりに気付いたり、乗法九九の理解を一層深めることをねらっている。また、ものの集まりを幾つかずつまとめて数える活動を通して、ある部分の大きさを基にし、その幾つ分として捉え、一つの数をほかの数の積としてみることができるようにする。また、身近なものを数えるときかけ算九九を使うと便利なことや、いろいろなかけ算の式で求められることを知り、かけ算の有用性に気付き、今後の生活場面でかけ算九九を活用できるようにすることも大切である。さらに、問題解決にはいろいろな考え方があることを知り、自分の思考過程を他人に分かりやすく表現したり、発表したりする活動を通して、論理的に考える力を育成することができると思う。

(2) 児童観

本学級の児童は、「算数が好き」と答えた児童が17名で、「かけ算の学習が好き」と答えた児童は22名であった。

レディネステストでは、絵の中からかけ算の式で表すものを見付け、正しく立式できた児童は25名だった。しかし、かけ算の答えを正しく求められたのは22名であった。

このことから、乗法の用いられる場面は理解できているが、九九や加法を使って正しい答えを見付ける力は十分とは言えない。

思考力・表現力の実態

図やふき出しを使って自分の考えを書けるようになってきた児童は25名である。しかし、わかっている情報を整理し、順序よく説明できる児童は15名である。図はかいていてもそこで終わっている児童もいる。図と式を結び付けながら書いたり、算数用語を正しく使って分かりやすく説明したりすることには課題がある。また、筋道を立てて分かりやすく話すことも十分とは言えない。

(3) 指導観

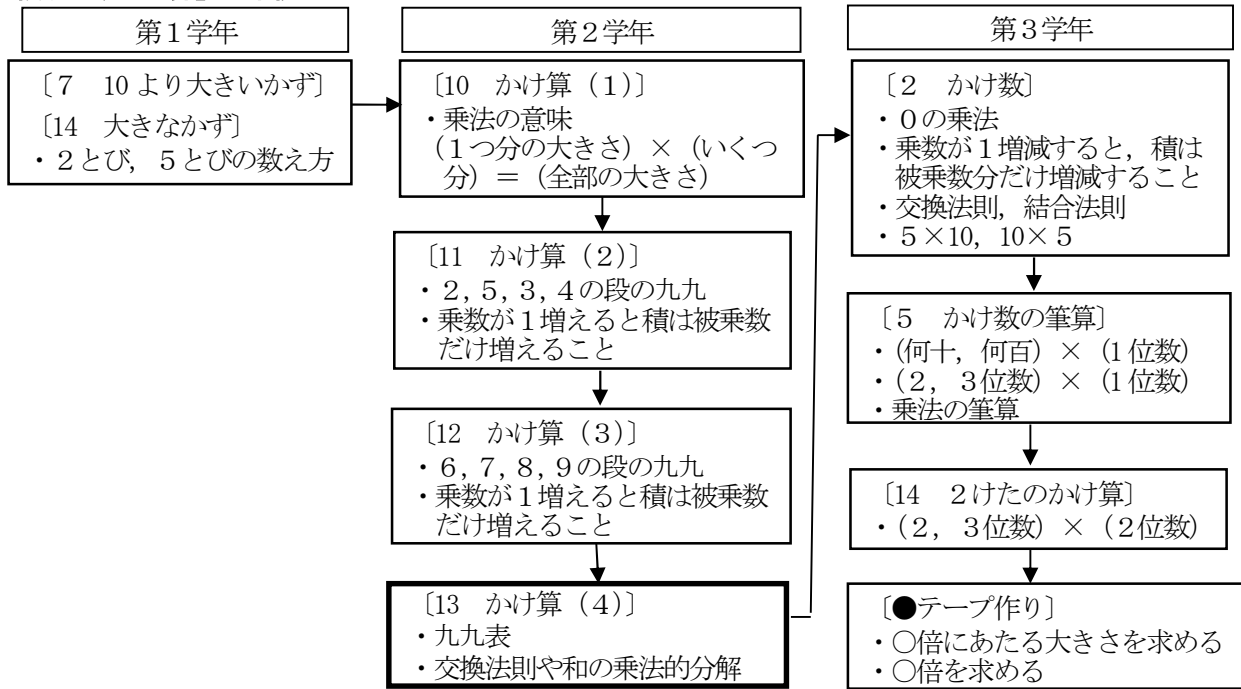
単元を通して、体験的な学習や身近な生活体験と結び付けた学習活動を展開し、いろいろな気付きや驚きを大切に拾いあげ、かけ算の性質を帰納的に見いださせる。また、既習事項を一目見て分かるように掲示したり、児童が作ったかけ算の問題を掲示したりして、日常からかけ算に興味をもてるような教室環境づくりをする。本時では、問題場面を巻物にし、少しずつ提示するという工夫をし、「やってみよう」という活動意欲と「考えてみたい」という解決意欲を高めるようにする。

自力解決では、ぱっと見てどのように考えたのか分かりやすくなるよう、図を囲んだり式を書いたりする時に色分けをするなど、まとめ方を工夫させる。また、既習事項のどの内容を使って考えたのかを説明させ、根拠を明らかにさせていく。そして、ペアで話す活動を取り入れることで、自分の考えを「まず」「次に」と順序よく説明させる。また、友達の図を他の児童が説明したり、友達の式を図に表したりする場を作り、理解を深める。

(4) 単元でめざす児童の姿

- 乗法九九の表を観察し、被乗数、乗数、積の関係や交換法則などの乗法についての性質を見いだしている。また、簡単な2位数と1位数の計算について、乗法のきまりをもとに考え、式や図を用いて表現し、答えの求め方を工夫している。(数学的な考え方)
- 乗法のきまりや、乗法九九表を活用して、楽しいゲームを工夫したり、身近な問題に生かそうとしたりしている。(関心・意欲・態度)

2 領域「数と計算」の系統



3 単元の評価規準

	関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
単元の評価規準	九九乘法を活用して, きまりを見付け, 身近な問題に生かそうとする。	乗法九九の表を観察して, 乗法についての性質を見いだしている。また, 簡単な2位数と1位数の計算について, 乗法のきまりをもとに考えている。	乗法のきまりを用いて, 乗法九九表を完成させることができる。	被乗数, 乗数, 積の関係や交換法則を理解し, 九九表のきまりを理解している。

4 指導計画 (全9時間)

次	学習活動	めざす児童の姿
一 かけ算九九のひょう	かけ算九九の表を作る (1)	九九表の仕組みを理解し, 乗法九九の表を完成させている。 【知・理】 (ワークシート)
	九九表から, いろいろなきまりや特徴を考え, 発表する。 (1)	九九表のよさに気づき, いろいろなきまりや特徴を見付け出している。 【考え方】 (ノート)
	九九表や具体物の操作をもとに, 乗法の交換法則を理解する。 (1)	被乗数と乗数に着目して, 式や図を用いて表現し, 答えが同じになるわけを書いている。 【考え方】 (ノート)
二 かけ算ゲーム	「かけ算ゲーム①」のルールを理解し, ゲームを楽しむ。 (1)	乗法を活用し, 楽しくゲームを行おうとしている。 【関・意・態】 (ノート, 行動観察)
	「かけ算ゲーム②」のルールを理解し, ゲームを楽しむ。 (1)	乗法を活用し, 楽しくゲームを行おうとしている。 【関・意・態】 (ノート, 行動観察)
三 九九をこえたかけ算	既習事項を活用し, 乗数が九九をこえたかけ算について乗法のきまりや具体的な操作をもとに考える。 (1) (本時6/9)	簡単な2位数と1位数の計算について, 乗法のきまりをもとに考えている。 【考え方】 (ワークシート)
	既習事項を活用し, 被乗数が九九をこえたかけ算について乗法の交換法則九九表で見付けたきまりや具体的な操作をもとに考える。 (1)	簡単な2位数と1位数の計算について, 乗法のきまりをもとに考えている。 【考え方】 (ノート)
	19人で旅行に行く時の座席の取り方について, 既習の乗法九九を活用して考える。 (1)	かけ算九九を想起し, 場の状況を考えながらかけ算九九を生活場面で活用することができる。 【技能】 (ノート)
四 まとめ	既習事項の確かめをする。九九表を広げ, 乗法九九のきまりを活用しながら, 九九表を完成させる。 (1)	乗法九九のきまりをもとに, 式や図を用いて考えている。 【技能】 (ノート)

5 本時の展開

(1) 本時の目標

既習事項を活用し、乗数が九九をこえたかけ算について乗法のきまりや具体的な操作をもとに考える。

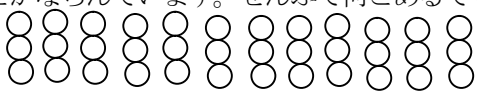
(2) 観点別評価規準

簡単な2位数と1位数の計算について、乗法のきまりをもとに考えることができる。【数学的な考え方】

(3) 準備物

だんごの絵、3の段の九九表、ブロック、ワークシート、評価問題

(4) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) と支援 (◆)	評価規準 (評価方法)
1 学習の振り返りをする。 2 本時の問題を提示する。	○ 九九の秘密や乗法のきまりを振り返る。 ○ 問題を巻物状にしておき、少しずつ開いていき、だんごが何本出てくるか興味をもたせながら提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> だんごがなんでいます。ぜんぶで何こあるでしょう。  </div>	
3 解決の見通しをもち、本時のめあてを確認する。	○ かけ算の式で表せる事を確認し、 3×12 と立式する。 ○ これまでのかけ算とはちがって、かける数が9をこえていることに気付かせる。 ○ 既習の乗法計算の仕方や3の段のきまりを使えば、答えを見付けられそうだという見通しをもたせ、めあてを作る。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;"> かける数が9をこえるかけ算の計算のしかたを考えよう。 </div>	
4 自分の方法で、 3×12 の計算の仕方を考える。	○ 3×12 の図が描いてあるワークシートを用意しておき、囲んだりふき出しや式を書き込んだりさせながら考えさせる。 ○ 式だけ、図だけで考えている児童には、式に吹き出しを付けて何の数を表すのか、図を式で表せないかを考えさせる。 ○ ぱっと見てどう考えたのか分かるように書かせる。 ◆ 3個がつながっているブロックを用意しておき、ブロックを動かしながら考えられるようにしておく。 ◆ 「3の段の九九は答えが3ずつふえるね。」「二つに分けて考えてみると…」等、考える手がかりを書いたヒントカードを用意しておく。	○ 2位数と1位数の計算について、乗法のきまりをもとに考えている。【考え方】(ワークシート)
5 自分の考えた方法をペアで話し合う。 6 3×12 の計算の仕方を、全体で話し合う。 7 まとめをする。	○ 図を指し示しながら、どのように考えたのか式と図を結び付けながら説明させる。 ○ 図と式を結び付けながら説明させる。 ○ 簡潔でわかりやすい説明となるように声かけをする。 ○ 友達の図を他の児童が読み取って説明したり、友達の式を読み取り他の児童が図に表したりさせて、理解を深めていく。 ○ それぞれの考え方を大切にしながら、似ている考えを見付けたり、ネーミングしたりしながらまとめていく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;"> 九九が使えるように分けたり、かけ算のきまりを使ったりすると計算できる。 </div>	
8 練習問題を解く。(評価問題) 9 振り返りをする。	○ 既習事項を使って、 4×12 の計算の仕方を考える。	○ 2位数と1位数の計算について、乗法のきまりをもとに考えている。【考え方】(プリント)

「主人公リーフレット」で紹介しよう

指導者 島本 佳代子

1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第3学年及び第4学年の「C読むこと」の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

(1) ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。

(1) 単元観

本単元は、心を惹かれる主人公の人物像を伝えるために「主人公リーフレット」で紹介する活動を通して、叙述を基に登場人物の性格や気持ちの変化を読み取る力を育てることをねらいとしている。

本教材「サーカスのライオン」は、年老いて生きがいが情熱も失い、やる気なく毎日寝てばかりいたライオンのじんざが、男の子との出会いや交流を通して、失っていた生きる希望を取り戻していく物語である。場面を経るにつれ、じんざの気持ちに変化していき、男の子に心を寄せていく様子がよく表現されている。そして、火事の中、自分の命を懸けて男の子を助けるじんざの姿に、児童は感動を覚えるであろう。構成は、「設定・展開・山場・結末」がはっきりした5つの場面からなる。作品中には、時間や場所についても具体的に描かれているため、それらの言葉を手がかりに場面を区分しやすい。さらに、一文が短く主述が明確なので、人物の言動が分かりやすく、特にじんざの行動を表す文に「うきうき」「ぐうんと」「びかびか」等の擬態語が多く、叙述から人物の気持ちを読み取ることに適した教材である。

本教材の読み取りを生かして、児童が心を惹かれた主人公を中心に自分が選んだ物語を紹介することで、主人公の会話や行動に着目しながら気持ちの変化を読み取らせる。また、同じ物語を選んだ友達とグループを組み、話し合うことで、友達によって感じ方に違いがあることに気づき、自分の読みと異なる読みへの出会いがさらに交流したいという意欲を高め、今後の豊かな読書活動につなげていきたい。

(2) 児童観

6月教材「木かげにごろり」では、民話のおもしろさの視点を学び、世界の民話に読み広げていく学習に取り組んだ。児童は、自分で選んだ民話を友達に進んで紹介したり、友達が紹介した民話に関心をもったりして読み、読書の幅に広がりが見られた。9月教材「ゆうすげ村の小さな旅館」では、登場人物の行動や会話に着目して性格や気持ちを読み取る学習に取り組んだ。自分が見付けていなかった叙述から性格を読み取った友達の意見を聞いて、意欲的に自分の意見に取り入れようとする姿が見られた。

思考力・表現力の実態

思考力については、市販のテストによると、中心人物の気持ちが表れている叙述を抜き出せた児童は21名であり、叙述を基に登場人物の気持ちを読み取る力が十分とはいえない。

児童アンケートによると、12名の児童が物事を比較したり友達の考えと関連させながら話したりすることが難しいと答えている。自分の意見を発言することはできるが、異なる意見と比較したり関連付けたりして自分の意見を吟味することに課題がある。友達の考えと比較して自分の考えを振り返り、さらに自分の思考を深めるような学習活動を仕組む必要がある。

表現力については、読書後の感想を書く際に、「おもしろかった」「すごいと思った」等、語彙が限られていたり、自分の経験と重ねて感想を書けなかったりする児童が11名いる。

(3) 指導観

「主人公リーフレットで紹介しよう」という言語活動を設定する。自分が選んだ物語について、心を惹かれた主人公を中心に友達に紹介し合う活動を通して、登場人物の行動や会話文に着目して気持ちの変化を読み取ることができると考える。そして、同じ物語を選んだ児童同士で登場人物の気持ちの変化について意見交流をさせることで、一人一人の感じ方に違いがあることに気づくことができると考える。

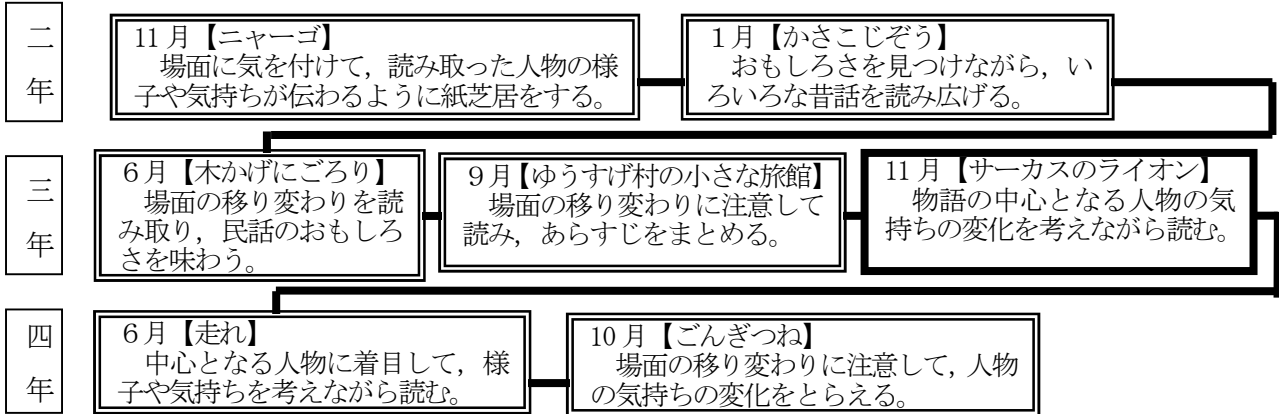
主人公リーフレットは、事件や物語の展開を「(主人公)が、(事件・きっかけ)によって、(変化した気持ちや様子)」という一文に表した「あらすじ」、山場場面の中から選んだ「クライマックスを表す一文」とその「理由」、そこから分かる「性格」、「感想」のパーツで構成する。感想を書く際には、手立てとなるよう、感想を表す言葉を一覧表にまとめておく。教材文と自分で選んだ物語のリーフレットをパーツごとに作っていくが、教材文で学習したことを即座に自分の読みに適用して読めるように、自分で選んだ物語を読むことを単位時間に部分的に取り入れる単元構成にする。各時間、交流する目的や相手を意識することで、自分の考えを明確にさせたり、本を読み返したりできるようにする。

友達の意見を聞く際には、自分の意見と比較しながら共通点や相違点を考えることを意識させる。友達の意見と自分の意見がどこまで同じなのか、どこが異なるのかを明確にすることで、自分の意見を見直し、思考を深めていきたい。

(4) 単元でめざす児童の姿

- 自分の選んだ物語を、主人公リーフレットで友達に紹介しようとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- 登場人物の行動や会話から、登場人物の性格や気持ちの変化を読み取ることができる。(読むこと)

2 領域「読解」の系統



3 単元の評価規準

	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	主人公に着目しながら、教材文や選んだ本を繰り返し読んだり、「主人公リーフレット」を作ったりして、自分で選んだ本を紹介しようとしている。	心を惹かれる主人公を紹介するために、行動や会話を表す叙述に着目して、主人公の性格や気持ちの変化をとらえて読んでいる。	自分の感想を明確に表現するための語彙を増やし、どの叙述に基づいているのか主人公リーフレットに表している。

4 指導計画 (全12時間)

次	学習活動	めざす児童の姿
0	朝読書の時間に、関連図書の読み聞かせを聞く。	関連図書に興味をもち、進んで読もうとする。 【関・意・態】(行動観察)
一	これまでの読書経験から、心を惹かれた主人公を発表し合い、学習のめあてをもつ。(1)	登場人物に着目しながら、「主人公リーフレット」を使って本の紹介をしようとしている。 【関・意・態】(行動観察)
	登場人物の心の動きが書かれた物語を読み、自分の一冊を決める。(1)	登場人物の心の動きが書かれた物語を読んで、紹介したい本を選ぼうとしている。 【読む】(ノート)
二	教材文を読んで感想を話し合い、場面分けをする。(1)	初発の感想を話し合い、時間や場所を表す言葉に着目して、5つの場面に分けている。 【読む】(ノート)
	教材文の構造分析をして、あらすじを書く。(1)	5つの場面を「設定・展開・山場・結末」の構成に分けて、あらすじを一文でまとめている。 【読む】(主人公リーフレット)
	自分で選んだ物語の構造分析をし、あらすじを書く。(2)	おおまかな出来事を整理し、「設定・展開・山場・結末」の構成に分けて、あらすじを一文でまとめている。 【読む】(主人公リーフレット)
	じんぎや男の子の人物像をとらえる。(1)	登場人物の行動や会話に着目しながら、じんぎや男の子の人物像を読み取っている。 【読む】(ノート)
	自分で選んだ物語の人物像をとらえる。(1)	登場人物の行動や会話に着目しながら、登場人物の人物像を読み取っている。 【読む】(ノート)
三	クライマックスの一文を見つける。(1)(本時9/12)	主人公の気持ちの変化が表れている一文について、叙述に着目して読み取っている。 【読む】(主人公リーフレット)
	主人公を中心に、物語について感想を書く。(1)	主人公の気持ちの変化に対する感想をまとめている。 【読む】(主人公リーフレット)
	選んだ物語の主人公リーフレットをまとめる。(1)	登場人物の性格や気持ちの変化について、まとめている。 【読む】(主人公リーフレット) 自分の感想を明確に表現するための語彙を増やし、どの叙述に基づいているのか主人公リーフレットに表している。 【言語】(主人公リーフレット)
	主人公リーフレットを使って、選んだ物語を友達に紹介し、感想を伝え合う。(1)	自分の主人公リーフレットを友達に説明したり、自分のものと比べながら聞いたりしている。 【読む】(主人公リーフレット)

5 本時の展開

(1) 本時の目標

設定場面と山場場面の主人公の行動や会話の叙述を比較しながら考えることを通して、主人公の気持ちの変化を読み取ることができる。

(2) 観点別評価規準

主人公の行動や会話の叙述に着目しながら気持ちの変化を読み取り、クライマックスの一文を見つけ、その理由を「主人公リーフレット」にまとめている。【読むこと】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) と支援 (◆)	評価規準 (評価方法)
<p>1 これまでの学習を振り返り、本時の学習内容を確認する。</p> <p>2 本時の課題を確認する。</p>	<p>○ 単元のゴールである、「主人公リーフレットで紹介しよう」のための単元計画を掲示で確認し、目的意識を明確にする。</p> <p>○ 設定場面のじんごの様子を、短い言葉で説明させる。</p> <p>◆ 性格を表す言葉を一覧表にしたものを掲示しておき、どの言葉が当てはまるか選ばせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>クライマックスの一文を見つけよう。</p> </div>	
<p>3 クライマックスの一文を見つけ、その理由を考え、話し合う。</p>	<p>◆ 設定場面の挿絵や、掲示で書き出しているじんごの行動や会話の叙述に着目させ、じんごの気持ちの変化をとらやすくする。</p> <p>○ 設定場面のじんごの様子と比べながら発言できるように、「前のじんごは…」 「最初のじんごは…」 という話形を示す。</p> <p>○ 「ほえた」と「さげんだ」を比較し、前は老いぼれたやる気のないサーカスのライオンだったことと関連付けて、野生のライオンの姿に戻ったじんごの様子を想像させる。</p> <p>○ 「人々の前」に金色でぴかぴかに輝くじんごが現れたことと関連付けて、題名にある『サーカスのライオン』としてのじんごの気持ちの変化に気付かせる。</p>	
<p>4 自分で選んだ物語のクライマックスの一文を見付け、その理由を考える。 (評価問題)</p>	<p>○ 「ニャーゴ」では、『ううん』と大きなためいきをつきました』がクライマックスの一文だと思います。最初はねずみを食べようとしていたたまが、ねずみがあんまり優しくしてくれるものだから、食べられなくなってしまったことが、ため息をついていることで諦めている気持ちが分かるからです。</p> <p>○ 「わたしはおねえさん」では、「けしかけて、でもけすのをやめて、すみれちゃんは次のページをひらきました。」がクライマックスの一文だと思います。妹のかりんちゃんに勝手にノートに絵をかかれてしまって、半分ぐらい泣きそうで、半分ぐらい怒りそうな気持ちが、妹の気持ちを考えたりお姉ちゃんとして我慢したりする気持ちに変わったことが分かるからです。</p>	<p>○ 主人公の行動や会話の叙述に着目しながら気持ちの変化を読み取り、クライマックスの一文を見付け、その理由を「主人公リーフレット」にまとめている。 【読む】(主人公リーフレット)</p>
<p>5 振り返りと次時の確認をする。</p>	<p>○ 振り返り際には、同じ物語を選んだ友達の見解について考えたこと(他者視点)や、クライマックスの一文を見つけるためにどのような思考の方法を使ったか(比較・関連)(自己モニター)、じんごと自分が選んだ物語の登場人物を比較して気付いたこと等を書くようにする。</p> <p>○ 次時では、自分で選んだ物語の主人公リーフレットを完成させることを伝える。</p>	

習熟度別指導

第4学年1組 基礎（土コース 18名） 算数科「面積」

どれくらい広いか調べよう～見えない図形や長さを考えて～

指導者 石津 誠（土コース）

1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第4学年の「B量と測定」及び「D数量関係」の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

- B (1) 面積について単位と測定の意味を理解し、面積を計算によって求めることができるようにする。
- ア 面積の単位（平方センチメートル（ cm^2 ）、平方メートル（ m^2 ）、平方キロメートル（ km^2 ））について知ること。
 - イ 正方形及び長方形の面積の求め方を考えること。
- D (2) 数量の関係を表す式について理解し、式を用いることができるようにする。
- イ 公式についての考え方を理解し、公式を用いること。

(1) 単元観

本単元は、広さも単位面積をもとに数値化できることを理解し、長方形や正方形、複合図形などの面積を公式を用いて求めることができるようになることをねらいとしている。

児童は、第1学年、第2学年で、直接比較や色板並べをして広さを比べたり、敷き詰めたり、身の回りの具体物の中にある面を写し取ったりして、広さの素地ともいえる学習をしてきている。

第4学年では、1辺が1cmの正方形の敷き詰めを考えから、単位面積 1cm^2 を導入し、長方形や正方形の面積を単位面積のいくつ分として表すことを指導する。また、図形を移したりずらしたりしても広さは変わらないという広さの保存性についても留意して扱う。さらに、新しい乗法としての求積公式を導き、複合図形の求積に発展させる一方、単位の範囲を拡大したり、単位間の関係を理解させたりすることを指導する。

(2) 児童観

土コースの児童は、2つのじゅうたんの広さを、タイルの数で比較して答える問題では、16名が正しく答えることができた。ほとんどの児童が広さを任意単位のいくつ分で表すことができた。誤答は2名であった。そのうち1名は、広さと長さを区別して捉えることができず、辺の長さで比較していた。また、1名は無回答であった。

思考力・表現力の実態

箱に並んだ丸の数を求める問題で、図と式を結び付けて正しく立式できた児童は5名であった。誤答として、立式はできるが図と結び付けて考えることができない児童が9名、立式できない児童が4名であった。

任意の単位を使って広さを比較する問題で、調べた2つの数を根拠に挙げて説明することができた児童は3名であった。2つの数について書いているが比較していない児童が8名、2つの数について書いていない児童が3名、理由のない児童が3名、無回答が1名であった。

以上のことから、立式する力、図と式を結び付ける力、不足なく説明を書く力が十分とはいえない。

(3) 指導観

面積は、単位になる広さのいくつ分で表されることを繰り返し指導する。直接比較や間接比較、任意単位での比較を通して、長さや広さを区別して捉えることができるようにする。単位面積の学習の導入では、1辺が1cmの正方形を並べる活動を取り入れ面積が 1cm^2 のいくつ分で表されることを捉えられるようにする。また、新聞紙で 1m^2 をつくったり、運動場に正方形をかいたりする活動を通して、 1m^2 の量感を身に付けられるようにする。

立式できるようにするため、問題の図の2つの長方形が捉えやすくなるよう重なっている長さを短くする。また、分からない辺を図の中に示しておく。さらに、方眼の線を入れたワークシートを準備する。

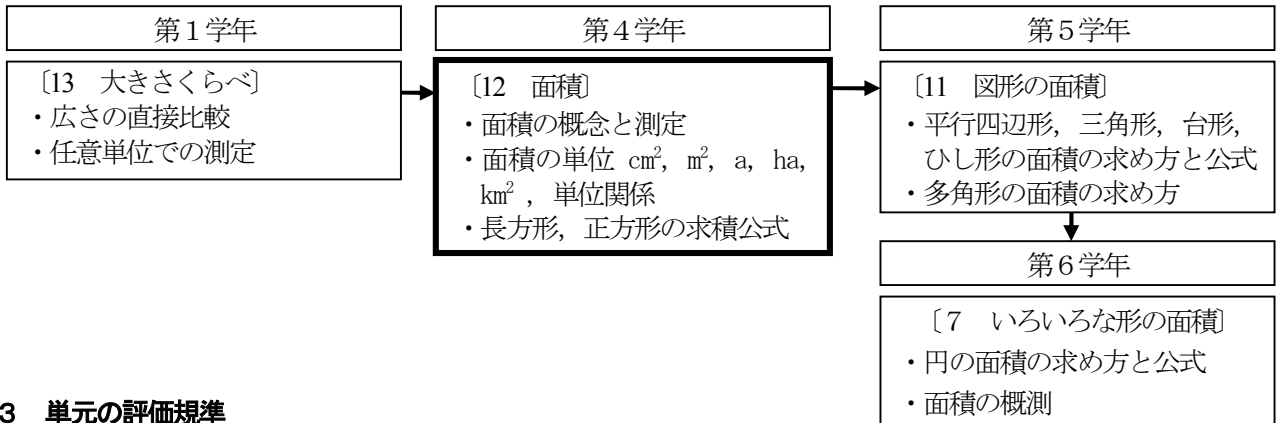
図と式を結び付けて捉えることができるようにするため、問題の辺の長さが同じにならないよう数値を工夫する。また、実際に問題の図を長方形に切り分けさせる操作を行う。そして、切り分けさせた2つの長方形を1つずつ説明させることで図と式を結び付けながら説明を書かせる。

不足なく説明できるよう、切り分けた図に番号を振る。そして、「まず」「次に」「最後に」の言葉で、順序立てて説明させる。

(4) 単元でめざす児童の姿

- 長方形や正方形を組み合わせた図形の面積の求め方を考え説明している。（数学的な考え方）
- 長方形や正方形の面積を公式を使って求めている。（技能）
- 面積の単位 cm^2 、 m^2 、 km^2 、a、haや面積の単位の関係を理解している。（知識・理解）

2 領域「量と測定」の系統



3 単元の評価規準

	関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
単元の評価規準	面積の大きさを数値化して表すことによさに気づき、身の回りのいろいろな形の面積を求めようとしている。	単位面積を用いて、広さを数値化する方法を考え、図や数、式を用いて表し、正方形や長方形の求積公式を導きだしている。	長方形や正方形、複合図形などの面積を公式を用いて求めることができる。	面積の単位と測定の意味が分かり、面積の求め方や単位の間関係を理解している。また、 1m^2 がどのくらいの面積なのかを、身の回りのものの面積の大きさをもとにしてとらえるなど、面積の大きさについて豊かな感覚をもっている。

4 指導計画 (全11時間)

次	学習活動	めざす児童の姿
一 面積	長方形や正方形の花壇の広さ比べをして広さを数で表す方法を考える。(1)	広さ比べに関心をもち、長さや重さでの比べ方を生かして比べ方を考えようとしている。 【関・意・態】(ノート, 行動観察)
	1cm^2 の正方形の数を数えて面積を求めたり、いろいろな 1cm^2 の図形をかいたりする。(1)	面積の単位 cm^2 を知り、単位のいくつかで表されることをもとにして面積が求められることを理解している。 【知・理】(ワークシート)
二 長方形と正方形の面積	長方形と正方形の面積の求め方を考え、長方形や正方形の面積の求め方を公式化する。(1)	辺の長さの数値と 1cm^2 の正方形の数が対応していることに気づき、辺の長さを利用して計算で面積が求められることを見出している。【考え方】(ノート)
	必要な辺の長さを測り、長方形や正方形の面積を求めたり、面積と横の長さが分かっている長方形の縦の長さを求めたりする。(1)	必要な辺の長さを測り、求積公式を適切に用いて長方形や正方形の面積を求めたり、求積公式を利用して辺の長さを求めたりすることができる。【技能】(ノート)
	複合図形の面積の求め方を考え、長方形や正方形の和や差で求める。(1)	複合図形の面積が、長方形や正方形の和や差で求められると考えている。【考え方】(ワークシート)
三 大きな面積の単位	既習事項を使って、複合図形の面積の求め方を考える。(1) (本時6/11)	分かっている辺の長さから分からない辺の長さを求め、複合図形の面積の求め方を考えている。 【考え方】(ワークシート)
	1辺が 1m の正方形を作り、面積の単位である m^2 を体感し、 $1\text{m}^2=10000\text{cm}^2$ であることを図や計算から確かめる。(1)	面積の単位である m^2 が分かり、 $1\text{m}^2=10000\text{cm}^2$ であることを理解している。 【知・理】(ノート)
	面積の単位である a と ha を知り、 a や ha の関係を考える。(1)	面積の単位である a と ha が分かり、 a と ha の関係を理解している。 【知・理】(ノート)
四 力だめし	面積の単位である km^2 を知り、 m^2 , a , ha , km^2 を比べて、正方形の1辺の長さと面積の単位の関係をまとめる。(1)	1辺が 1m の10倍, 100倍, 1000倍になると、面積の単位が変わることに気付いている。 【考え方】(ノート)
	いろいろな場所の面積を調べ、既習事項の面積の単位を使って広さを表す。(1)	身の回りのものの広さに関心をもち、意欲的に面積を調べ、ふわさしい単位を使って表そうとしている。 【関・意・態】(ノート, 行動観察)
	既習事項の理解を深める。(1)	既習事項や公式を正しく用いて、問題を解くことができる。 【技能】(ノート)

5 本時の展開 土コース (基礎)

(1) 本時の目標

分からない辺の長さを求め、図形の面積の求め方を図と式とを関連付けて説明することができる。

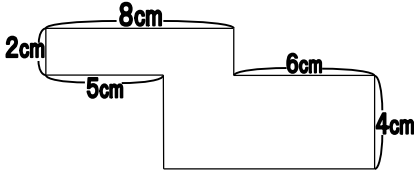
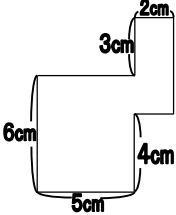
(2) 観点別評価規準

分かっている辺の長さから分からない辺の長さを求め、図と式を関連付けて面積の求め方を考え、説明している。【数学的な考え方】

(3) 準備物

黒板用図形提示カード、考え方ネーミングカード、ヒントカード、ワークシート、評価問題、ハサミ

(4) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) と支援 (◆)	評価規準 (評価方法)
<p>1 本時の課題を確認する。</p> <p>2 解決方法の見通しをもつ。</p>	<p>○ 前時の学習を振り返る。複合図形は、分割したり、全体から一部を引いたりして長方形や正方形の形にすれば、公式で面積を求めることができる。</p>  <p>○ 問題提示では、前時との違いに気付かせるために提示の仕方を工夫する。 ◆ 前時の学習内容を掲示し、比較させる。 ○ 前時との違いから、めあてを考えさせる。</p>	
<p>分からない辺の長さを求めて、公式を使って面積の求め方を説明しよう。</p>		
<p>3 面積の求め方を考える。</p>	<p>○ 図形を2つに分割する方法で考えさせる。 ◆ 問題の図の一部を手で隠すことで、長方形を見付けさせる。 ○ 問題の図形に切り取った紙を配布し、切り分けさせる。 ○ 切り分けた紙をワークシートに貼り、説明を書かせる。 ○ 面積を求めるために必要な長さに印を付けるようにする。 ◆ 方眼の線を入れたワークシートを準備する。 ◆ ICT機器を活用し、長さを求めるために必要な辺を抜き出したり移動させたりして、視覚的に支援する。</p>	<p>○ 分かっている辺の長さから分からない辺の長さを求め、図と式を関連付けて面積の求め方を考えている。 【考え方】 (ワークシート)</p>
<p>4 面積の求め方を全体で話し合う。</p>	<p>○ 式の中の数を、図の辺の長さに対応させながら説明させる。 ○ 「まず」「次に」「最後に」の言葉を使い、1文ごとに説明させる。 ◆ 辺の長さが同じになるところを、板書に示す。 ○ 面積の求め方をペアで説明し合い、内容を確認させる。</p>	
<p>5 類似の問題を解く。</p> <p>6 まとめをする。</p>	<p>○ 直前の問題との違いを見付けさせる。 ○ 同じ長さの辺を示し長さ説明させる。 ◆ 直前の問題を回転して提示し、類似点に気付かせる。</p>  <p>○ 今日新しくできるようになったことから、まとめを考えさせる。</p>	
<p>○ 分かっている辺の長さから分からない辺の長さを求めることができる。 ○ 縦と横の辺の長さが分かると公式を使って面積を求めることができる。</p>		
<p>7 練習問題をやる。 (評価問題)</p> <p>8 振り返りをする。</p>	<p>○ 長方形を見付けさせ、立式させる。 ○ 分かっている長さは、図に書き込ませる。</p>	<p>○ 分かっている辺の長さから分からない辺の長さを求め、図と式を関連付けて面積の求め方を考え説明している。 【考え方】 (ワークシート)</p>

習熟度別指導

第4学年1組 発展（堂コース 21名） 算数科「面積」

どれくらい広いか調べよう～見えない図形や長さを考えて～

指導者 槇田 有香（堂コース）

1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第4学年の「B量と測定」「D数量関係」の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

- B (1) 面積について単位と測定の意味を理解し、面積を計算によって求めることができるようにする。
- ア 面積の単位(平方センチメートル(cm^2), 平方メートル(m^2), 平方キロメートル(km^2))について知ること。
 - イ 正方形及び長方形の面積の求め方を考えること。
- D (2) 数量の関係を表す式について理解し、式を用いることができるようにする。
- イ 公式についての考え方を理解し、公式を用いること。

(1) 単元観

本単元では、求積指導の基礎となるもので、児童がこれまでに学習してきた長さやかさ、重さと同じように、広さも、単位面積をもとに、数値化できることを理解させることを主なねらいとしている。児童は、第1学年・第2学年で、直接比較や色板並べをして広さを比べたり、身の回りの具体物の中にある面を写し取ったりして、広さの素地ともいえる学習をしてきている。

第4学年では、広さを面積という量としてとらえ、普遍単位を導入して数値化して、長方形や正方形などの求積ができるようにする。つまり、1辺が1cmの正方形の敷き詰めを考えから、続いて単位面積1 cm^2 を導入し、長方形や正方形の面積を、単位面積のいくつ分として表すことを指導する。また、ここで同じ面積で形の違う形をかく活動を通して、面積は切って動かしても広さは保存されるということにも留意して扱う。さらに、新しい乗法としての求積公式を導き、複合図形の求積に発展させる一方、単位の範囲を拡大したり、単位間の関係を理解させたりすることを指導する。学習の過程において児童に測定などの算数的活動を十分に経験させ、豊かな量感を養っていきたい。

(2) 児童観

堂コースの児童は、1学期に学習した「量と測定」の「単元『角』」の学習が好きと答えた児童は、21人だった。レディネステストにおいて、並んだ○の数をまとまりを意識して、適切な式を使って複数の求め方ができている児童は、16人であった。また、長方形の中にあるまとまりとして計算できなかった児童は、13人であった。任意単位を使って広さを比較する問題において、具体的な数を根拠に挙げて説明することが不十分だった児童は12人であった。

思考力・表現力の実態

任意の単位を使って広さを比較する問題で、調べた2つの数を根拠に挙げて、説明することができた児童が14人であった。また、箱に並んだ丸の数を求める時、式をたてることができる。しかし、図と結び付けて考えることが難しい児童がいる。

乗法の問題文の数やキーワードをもとに理由付けしたり筋道を立てたりして考える児童は多い。しかし、自分なりに図や数直線をかいて問題解決をしようとする力は十分とはいえない。また、自力解決の場面では、図や言葉を使って、自分の考えの筋道を説明することに課題がみられ、学習したことを整理して書いてまとめることに苦手意識をもっている児童も多い。

(3) 指導観

導入として、「等周なら図形の広さが同じか」と問題提示し、議論させる。操作表現させたり、もとなる広さ（任意単位）を使って敷き詰めて、数値表現したりして広さを比べる。その活動を通して、いつでも使える普遍単位の必要性や、数値化の便利さを感じさせる。

複合図形の面積を求めるために、長方形や正方形の組み合わせであることを視覚的にとらえさせる。また、図や数、式等をどのように表現したらよいか参考ができるような掲示をする。

自力解決の場面で、複合図形に自分の考えを書きこみ、発表に活用できるようなワークシートを用意する。

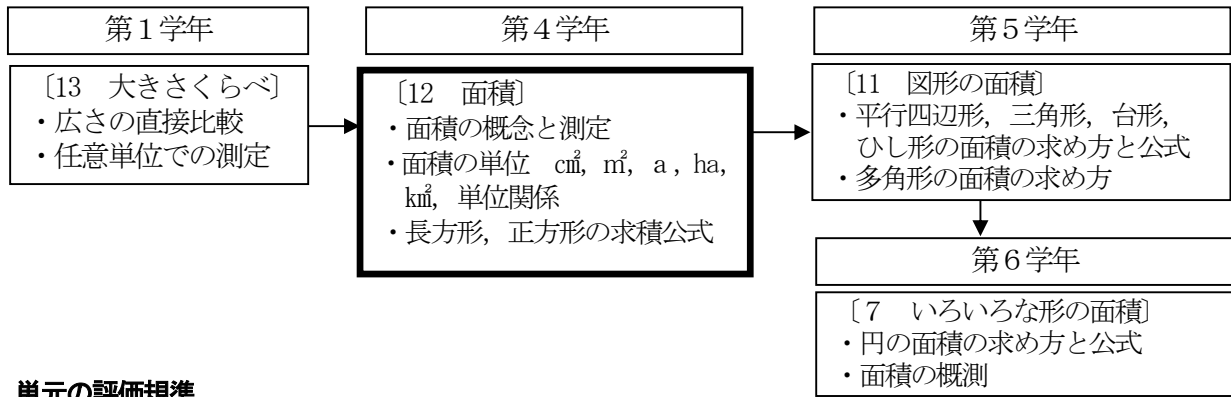
複合図形に組み合わせられている形や分かっている数値は、図形の中に書きこみをして、情報を整理させる。集団解決の時には、考えた理由が視覚的にも分かるように、提示用の用紙に発表児童の考えを書かせる。具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして考えて、説明させる。

既習事項を使って発言したり、説明を書いたりできるように、学習した内容を掲示する。また、児童の発言が行き詰った時には、他の児童が付け加えて課題を解決していくように促す。

(4) 単元でめざす児童の姿

- 長方形や正方形を組み合わせた図形の面積の求め方を考え説明している。(数学的な考え方)
- 長方形や正方形の面積を公式を使って求めている。(技能)
- 面積の単位 cm^2 , m^2 , km^2 , a, ha や面積の単位の関係を理解している。(知識・理解)

2 領域「量と測定」の系統



3 単元の評価規準

	関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
単元の評価規準	面積の大きさを数値化して表すことよきに気付き、身の回りのいろいろな形の面積を求めようとしている。	単位面積を用いて、広さを数値化する方法を考え、図や数、式を用いて表し、長方形や正方形の求積公式を導きだしている。	長方形や正方形、複合図形の面積を公式を使って求めることができる。	面積の単位と測定の意味が分かり、面積の求め方や単位の間を関係理解している。また、1 m ² がどのくらいの面積なのかを、身の回りのものの面積の大きさをもとにしてとらえるなど、面積の大きさについての豊かな感覚をもっている。

4 指導計画 (全11時間)

次	学習活動	めざす児童の姿
一 面積	長方形や正方形の花壇の広さ比べをして広さを数で表す方法を考える。(1)	広さ比べに関心をもち、長さや重さでの比べ方の方法を生かして比べる方法を考えている。【関・意・態】(行動観察)
	1 cm ² の正方形の数を数えて面積を求めたり、いろいろな1 cm ² の図形をかいたりする。(1)	面積の単位cm ² を知り、単位のいくつかで面積が求められることを理解している。【知・理】(ノート)
二 長方形と正方形の面積	長方形と正方形の面積の求め方を考え、長方形や正方形の面積の求め方を公式化する。(1)	辺の長さの数値と1 cm ² の正方形の数が対応していることに気付き、辺の長さを利用して計算で面積が求められることを見出している。【考え方】(ノート)
	必要な辺の長さを測り、長方形や正方形の面積を求めたり、面積と横の長さが分かっている長方形の縦の長さを求めたりする。(1)	必要な辺の長さを測り、求積公式を適切に用いて長方形や正方形の面積を求めたり、求積公式を利用して辺の長さを求めたりすることができる。【技能】(ノート)
	複合図形の面積の求め方を考え、長方形や正方形の和や差で求める。(1)	複合図形の面積が、長方形や正方形の和や差で求められると考えている。【考え方】(ワークシート)
	既習事項を使って、複合図形の面積の求め方を考える。(1) 本時(6/11時)	分かっている辺の長さから分からない辺の長さを求め、複合図形の面積の求め方を考えている。【考え方】(ワークシート)
三 大きな面積の単位	1辺が1 mの正方形を作り、面積の単位1 m ² を体感し、1 m ² =10000 cm ² であることを、図や計算から確かめる。(1)	面積の単位であるm ² が分かり、1 m ² =10000 cm ² であることを理解している。【知・理】(ノート)
	面積の単位であるaやhaを知り、haとaの関係を考える。(1)	面積の単位であるaとhaが分かり、aとhaの関係を理解している。【知・理】(ノート)
	面積の単位であるkm ² を知り、m ² , a, ha, km ² を比べて、正方形の1辺の長ささと面積の単位の関係をまとめる。(1)	1辺が1 mの10倍、100倍、1000倍になると、面積の単位が変わることに気付いている。【考え方】(ノート)
四 力だめし	いろいろな場所の面積を調べ、既習事項の面積の単位を使って広さを表す。(1)	身の回りのものの広さに関心をもち、意欲的に面積を調べ、ふさわしい単位を使って表わそうとしている。【関・意・態】(行動観察)
	既習事項の理解を深める。(1)	既習事項や公式を正しく用いて問題を解いている。【技能】(ノート)

5 本時の展開 堂コース (発展)

(1) 本時の目標

複合図形の面積について、必要な辺の長さを求めて、図と式とを関連付けて多様な面積の求め方を説明することができる。

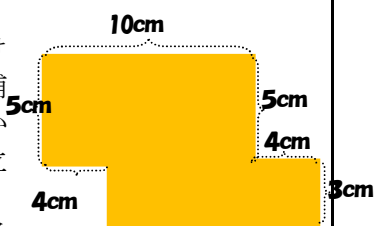

(2) 観点別評価規準

長方形を組み合わせた図形であることに気付き、言葉や数、式や図などを用いて、面積の求め方を多様に考え、説明している。【数学的な考え方】

(3) 準備物

黒板用図形提示カード、考え方ネーミングカード、ヒントカード、ワークシート、評価問題

(4) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) と支援 (◆)	評価規準 (評価方法)
1 本時の課題を確認する。	○ 前時に学習した複合図形を振り返り、本時の複合図形と比べてめあてを確認する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 必要な辺の長さを求めて、面積の求め方をいろいろ考え、説明しよう。 </div>		
2 面積の求め方を考える。	○ ワークシートに自分の考えを記述する。たくさん考えがある場合は、新しいワークシートを取らせる。 ◆ 問題1の複合図形を見て、分からない辺の長さについて考える。面積を求めるために必要な辺を見付ける。 ◆ 組み合わせさっている長方形が分かるように、補助線の入ったヒントカードを渡す。 ○ より少ない計算で答えを求めることができないか考えさせる。	○ 長方形の組み合わせ方に気付き、図と式を関連付けて、多様な面積の求め方を考えている。【考え方】(ワークシート)
3 面積の求め方について全体で話し合う。	○ 自分の複合図形の求め方を提示し、説明する。 ○ 友達の式を見て、どんな考えか予想させる。 ○ 式を先に提示し、どのような長方形の組み合わせで考えたかを考えさせる。 ○ 式をそのまま読み、計算の手順だけを説明するのではなく、どのように補助線を引いて長方形を見いだしたかや、長方形のどの辺の長さを使って立式したのかなど説明する。 ◆ 考え方を整理するために、前時の学習につながるネーミングカードを貼って分類する。	
4 まとめをする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ○ 分かっている辺の長さから必要な辺の長さを求めることができる。 ○ 縦と横の辺の長さが分かると公式を使って面積を求めることができる。 </div>	○ 長方形の組み合わせ方に気付き、必要な辺の長さを求めて、面積の求め方公式を使って面積を求め、説明している。
5 練習問題を解く。(評価問題)	○ 既習事項を使って、問題を解かせる。 ○ 分かっている辺の長さや組み合わせさっている図形が分かるようには、図に書き込ませる。	【考え方】(ワークシート)
6 振り返りをする。		

マツダからMAZDAへ

指導者 舩上 敏成

1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第5学年の目標と内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のよう
に示されている。

(3) 我が国の工業生産について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それ
らは国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考えるようにする。

- ア 様々な工業製品が国民生活を支えていること
- イ 我が国の各種の工業生産や工業地域の分布など
- ウ 工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸などの働き

(1) 単元観

本単元では、我が国の基幹産業であり国民生活に欠かせないものとなっている自動車工業を取り上げる。自動車
の生産過程やそこに従事している人々の工夫や努力を調べ、それらが国民生活を支える重要な役割を果たし、自分
たちの生活の維持と向上に役立っていることや我が国の自動車工業の生産技術はめざましい発展をしてきており、
国内外の産業の発展における重要な役割を果たしていることを捉えさせることをねらいとしている。

本教材は、我が国の自動車工業が、効率的な生産の仕組みや高い技術力により、国民生活を支える重要な役割を
果たしていることを学習する。特に、マツダの自動車生産は、様々な新しい技術に挑み続け、ロータリーエンジン、
クリーンディーゼルエンジンなどの走りや環境に配慮した開発をしてきた。高性能なマツダの自動車は国内だけで
なく欧米を中心に世界で乗られ、現在、メキシコなどの海外の工場でも生産されている。

マツダの自動車の生産を扱い、我が国の自動車工業を学習することは、自動車生産に従事する人々の工夫や努力
が国民生活の向上や国内外の産業の発展に果たしている役割について考えるよい単元であると考えられる。

(2) 児童観

社会科に関する意識調査を行ったところ、
「社会科が好き」と答えた児童は19人であつた。一方、社会科に苦手意識をもつ児童は4人で、
「用語を覚えること」に苦手意識がある。
また、日本の自動車工業について意識調査を行つたところ、「機械によって自動車を組み立
てる」と答えた児童は10人いたが、「ライン生産」や「指示ピラ」について答えた児童はい
なかった。また、19人の児童が工場で作られた自動車の輸送先について「日本人・日本のメー
カーのもとへ運ばれている」と答えた。

思考力・表現力の実態

我が国の食料生産に関する学習において、資
料や自分の生活経験をもとに、地理的条件や自
然条件、働く人、消費者のニーズなどの多様な
視点から食料生産が国民生活に果たす役割に
ついて考えることができた児童は7人いた。事
象の意味が理解できなくても、その原因を説明
したり働く人々の思いや願いを考えたりする
ことに課題があつた。

(3) 指導観

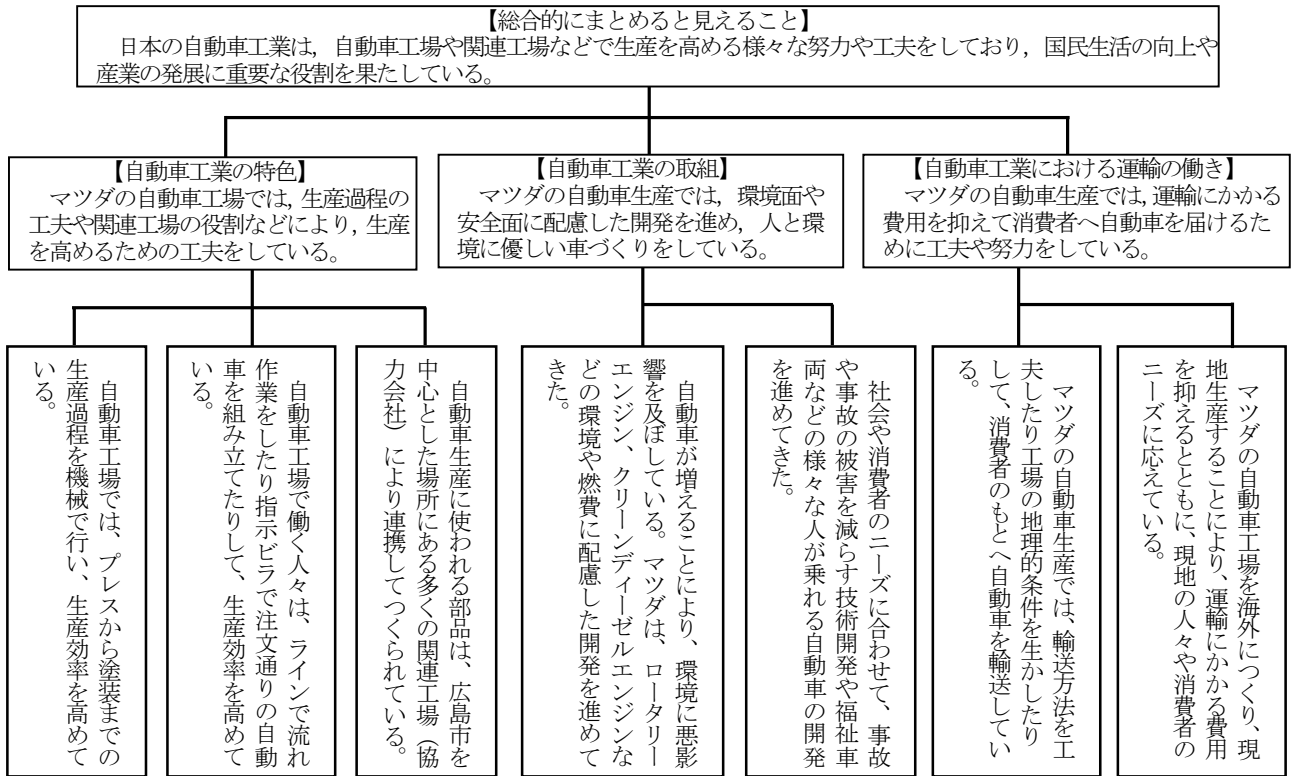
広島県に本社や生産工場があるマツダの自動車
づくりを教材にして学習を進めることで、関心を
高めていく。また、身近な生活や社会に視点を当
てて振り返らせることで、自動車工業と自分たち
の生活との関わりについて関心をもたせる。
運輸に関する学習では、製品の運輸だけでなく
海外での現地生産の事例を取り上げる。資料から
輸出品の減少や海外生産量の増加などを捉えさせ、
運輸にかかる費用を抑えるために多くの企業が
海外進出している事実気付かせることで、日本
の自動車の消費者やそのニーズ、自動車づくり
が社会に果たしてきた役割について考えさせる。

児童が身近な生活や社会と関連させながら自動
車工業について考えることができるよう、児童の
生活経験と矛盾を感じる事実やものを提示し、課
題解決への意欲を高める。また、関連する他の事
例と比較しながら話し合う活動を仕組むことで、
自動車工業の特色や働く人々の工夫、努力につ
いて捉えさせたい。

(4) 単元で目指す児童の姿

- 我が国の自動車の生産は、原材料の加工や部品の組み立てにより優れた製品を生産していることや条件を
生かしながら生産を高める工夫や努力をしていること、運輸の働きがわかるとともに、自動車の生産と国民
生活のかかわりについて考えようとする。
- 地図や統計などの資料を活用して調べたことをまとめるとともに、我が国の自動車工業が国民生活の向上
や国内外の産業の発展に果たしている役割について考え、適切に表現する。

2 内容構造図



3 単元の評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
単元の評価規準	我が国の自動車工業の様子に関心をもち、国民生活を支える自動車の重要性や発展について考えようとしている。	マツダが海外に自動車工場をつくり現地生産を行うことのメリットや自動車工業に対する社会や消費者のニーズについて考え、適切に表現している。	自動車の生産の工夫や国民生活・産業に果たしている役割などについて単元を通して学んだことを新聞にまとめている	自動車工場や関連工場で働く人々の生産効率を高める工夫、運輸の工夫や運輸にかかる費用、環境に配慮した自動車づくりが進められていることを理解している。

4 指導計画 (全10時間)

次	学習活動	めざす児童の姿
一	自動車とわたしたちの生活のかかわりについて考える。(1)	自動車はわたしたちの生活に欠かせないものであることに気付き、自動車とわたしたちの生活のかかわりについて関心をもつ。 【関・意・態】(ノート、行動観察)
	マツダは自動車をどのようにしてつくり、どのようにして消費者へ届けているのだろうか？	
二	自動車工場働く人々の工夫や努力について調べる。(3)	工場を見学したり、資料を活用して調べたりして分かったことをまとめている。 【技能】(ノート)
	自動車の部品がどのようにつくり、組み立て工場へ運ばれているか調べる。(1)	部品をつくる過程やその輸送について調べ、自動車をつくるために多くの工場が連携していることを理解している。 【知・理】(ノート)
	自動車が消費者に届くまでの過程を調べる。(1)	運輸の働きについて調べ、輸送方法の工夫、自動車の価格に輸送費などが影響していることについて理解している。 【知・理】(ノート)
	環境にやさしい自動車づくりの開発について調べる。(1)	環境にやさしい自動車づくりが進められていることや環境のことを考えた工業生産が大切であることを理解している。 【知・理】(ノート、発表)
	海外で自動車を現地生産するようになった理由について話し合う。(1) (本時8/10)	マツダがメキシコに自動車工場をつくらせた理由について、運輸にかかる費用と現地の人々のニーズを関連付けて考え、表現している。 【思・判・表】(ノート・発表)
	人にやさしい自動車づくりの開発について話し合う。(1)	今後の工業生産の発展と社会や消費者のニーズに合った車づくりについて考え、表現している。 【思・判・表】(ノート・発表)
三	自動車について学習したことを新聞にまとめる。(1)	自動車の生産の工夫や国民生活・産業に果たしている役割などについて単元を通して学んだことを新聞にまとめている。 【技能】(ワークシート)

5 本時の展開

(1) 本時の目標

日本の自動車企業が海外に自動車工場をつくった理由について、マツダの事例をもとに、運輸にかかる期間・費用や現地の人々・消費者のニーズを関連付けて考え、表現することができる。

(2) 観点別評価規準

マツダがメキシコに自動車工場をつくった理由について、運輸にかかる費用と現地の人々のニーズを関連付けて考え、表現している。 【思・判・表】

(3) 準備物

メキシコ工場の写真、世界地図、グラフ（自動車の海外生産・輸出台数の推移）、日本とメキシコの工場を比較する表、記事、働く人々の話

(4) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) と支援 (◆)	評価規準 (評価方法)
1 輸出が減り、海外での現地生産が増えていることをつかむ。	○ 自動車の海外生産・輸出台数の推移から日本の自動車生産の変容に気付かせる。また、マツダのメキシコ工場の写真を提示し、規模の大きさや生産の様子に着目させる。	
2 本時の課題を確認する。	マツダがメキシコに自動車工場をつくったのは、なぜだろう。	
3 予想する。	○ 考えを持たせる手立てとして、大市場であるアメリカへの日本とメキシコで生産した自動車の輸送手段や輸送期間を表で提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自動車が早く届くから ・ 輸送費が安いから ・ 日本では売れなくなったから ・ 海外でマツダの自動車が人気だから </div>	
4 資料をもとに、全体で話し合う。	○ 製品の輸送手段・期間と輸出にかかる関税について、メキシコと日本を比較させることで、メキシコに工場をつくることで、自動車の輸送費や輸送手段を抑えることができるというメリットに気付かせる。	
5 メキシコの人々の視点から考え、全体で話し合う。	○ メキシコの工場に関する記事や働く人の話を読むことで、工場は、メキシコの人々が働き、高度な技術を学ぶ場となっていること、マツダが現地の人々の生活を大切にしていることに気付かせる。 ◆ トヨタ・ホンダの生産工場の海外進出の様子を地図で提示することで、日本の企業の自動車工場が世界に広がっている様子を捉えさせる。	
6 まとめをする。(評価問題)	マツダがメキシコに工場をつくったのは、輸送や輸出にかかる費用を抑え、世界中の人々にマツダの自動車に乗ってもらうことができるから。メキシコの人々が働いたり、技術を学んだりできる場所となり、マツダの自動車づくりが世界に認められるから。	○ 運輸にかかる費用と現地の人々のニーズを関連付けて考えて考え、表現している。 【思・判・表】(ノート)
7 振り返りをする。	○ 自動車工場が海外進出していくことと自分たちの生活を結び付けて考えたことを振り返らせる。	

語り合おう！ 椋鳩十のメッセージを

指導者 川本 美紀子

1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第5学年及び第6学年の「C読むこと」の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

- (1) エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。
- オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。

(1) 単元観

本単元は、中心となる登場人物の心情を登場人物同士の関係やそこでの言動、情景描写に着目し、自分の考えをまとめたり、互いの考えを交流したりすることを通して、叙述に即して、登場人物の相互関係や心情や作品のテーマを読み取る力を付けることをねらいとしている。また、椋鳩十の動物と人間との関わりを描いた作品を読むことを通して、作品や作者が伝えたかったメッセージについて自分の考えをまとめ、表現する力を身に付けさせることをねらいとしている。

本教材は、狩猟を生業とする大造じいさんとがんの頭領である残雪の生命をかけた激しい戦いが、美しい情景描写とともに生き生きと描かれている作品である。時間の経過に合わせて物語が展開していくので、登場人物や場所の設定、物語の構成がつかみやすい。場面の転換や物語の山場の部分では、大造じいさんと残雪の行動の細かい描写や大造じいさんの心情を暗示する情景描写が多く使われているので叙述に即して登場人物の相互関係や心情を読み取るのに適している。

本単元では、「大造じいさんとがん」と「月の輪グマ」「片耳の大シカ」「金色の足あと」の3つの作品を比べることで、「大造じいさんとがん」に込められた椋鳩十のメッセージに迫っていく。3つの作品との共通点を探りながら、作者のメッセージを読み取っていくことを通して、自分の考えを持ち、それを友達と交流してさらに自分の読みを深めることができると考える。

(2) 児童観

児童は、自分の好きなシリーズの本を選んで読んだり、友達同士でおすすめの本を紹介しあったりして読書に親しんでいる。6月教材「世界でいちばんやかましい音」の学習では、物語の構成について学習した。21名の児童が物語の構成をとらえて物語を読み取っていくことで、人物の心情が読み取りやすくなったと感じることができた。

思考力・表現力の実態

6月教材「世界でいちばんやかましい音」の学習では、「設定」「展開」「山場」「結末」の物語の構成について学習した。登場人物が大きく変化する「山場」を中心に、登場人物の心情の変化を読み取ることができた。また、作品の構成、あらすじ、人物像など、自分が読み取ったことをリーフレットにまとめる活動では、学習で読み取ったことをもとに自分なりの表現で書くことができた。しかし、作品の伝えたかったことを話し合う学習では、叙述を根拠に自分の考えを持ち、友達と話し合うことが十分ではなかった。

(3) 指導観

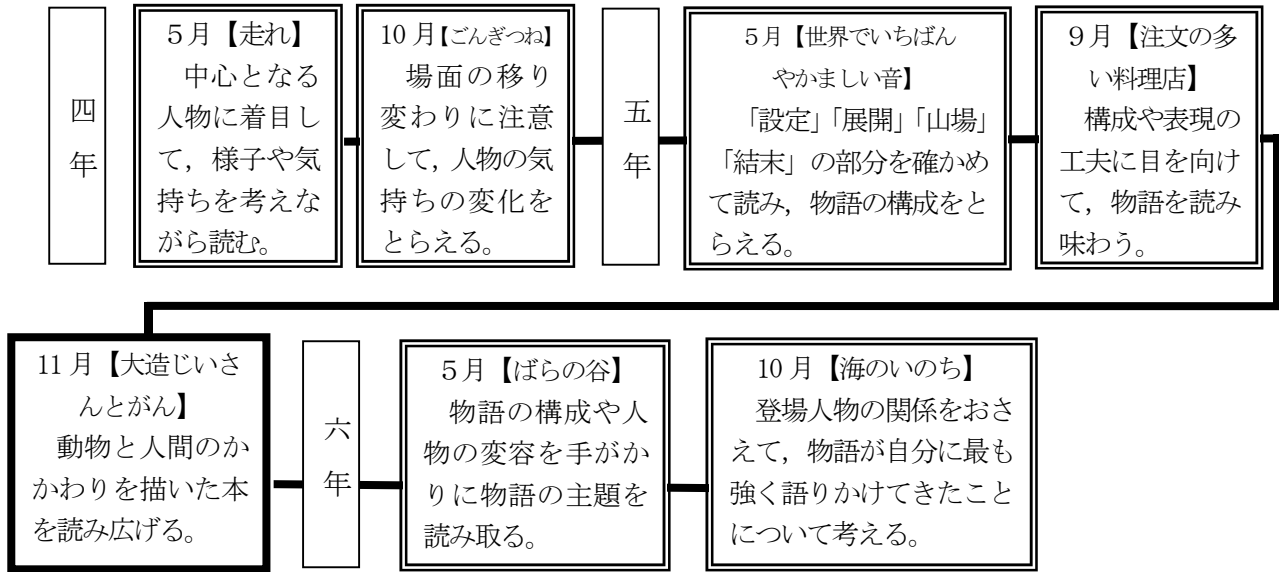
本単元では、人物相互の関係と情景描写に着目して学習をすすめる。中心教材「大造じいさんとがん」では大造じいさんのがんへの思いの変化を追う。そのために、物語の基本構成をもとに、物語を「山場」の前後に分けて読み取らせる。その際に、人物の行動だけでなく情景描写に着目させ、作者の表現の工夫にも気づかせる。また、「片耳の大シカ」「月の輪グマ」など、椋鳩十の他の作品を並行読書し、「大造じいさんとがん」と比較させながら学習を進めていく。

本単元では、「椋鳩十のメッセージを語り合おう」という学習課題を設定する。それぞれの作品を読み取る際には、「動物と人間との関係の変化」「クライマックス(人物像が大きく変化するきっかけとなる場面)」の2つの読みの視点を持たせ「椋鳩十メモ」にまとめていく。最後に、読みの視点に沿ってそれぞれの作品の共通点を探りながら「大造じいさんとがん」に込められた椋鳩十のメッセージを考えさせる。また、グループでの話し合い、全体での話し合いを繰り返し行うことで、自分の考えを表現する機会を増やす。そして、友達の見解を聞き、自分の思いを考え直したり、深めたりすることができるようにする。

(4) 単元でめざす児童の姿

- 友達とお互いの考えを交流することを通して、自分の考えをさらに深めようとする。
(国語への関心・意欲・態度)
- 登場人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景描写から登場人物の心情の変化を読み取る。(読むこと)

2 領域「読解」の系統



3 単元の評価規準

	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	興味を持って物語を読み、人物の心情の変化をとらえようとしている。 自分の考えを友達と進んで交流しようとしている。	登場人物の相互関係をとらえ、人物の心情の変化を読み取っている。 椋鳩十の本を読み、作品のテーマを考えている。	語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもっている。

4 指導計画 (全7時間)

次	学習活動	めざす児童の姿
一	学習課題を知り、学習の見通しを持つ。 物語を読んで初発の感想を交流する。(1) 物語の構造分析をする。(1)	○ 興味を持って物語を読み、構成をとらえようとしている。 【関・意・態】(ノート)
二	「大造じいさんとがん」を読み、登場人物の気持ちや心情の変化を読み取る。(3) 「大造じいさんとがん」の作品のテーマを話し合う。(1) (本時6/7)	○ 「大造じいさんとがん」を読み、叙述をもとに登場人物の心情や行動、場面の様子を読み取っている。 【読む】(行動観察, ノート, ワークシート) ○ 「大造じいさんとがん」の作品を読み、作品のテーマについて自分の考えを話したり書いたりしている。 【読む】(行動観察, ノート, ワークシート)
三	椋鳩十の作品を読み比べて、「椋鳩十のメッセージ」を考え、まとめる。(1)	○ 椋鳩十の作品を進んで読み、作品のテーマを考えようとしている。 ○ 本文の叙述や読み取ったことを根拠に、作品のテーマについて自分の考えを書いている。 【読む】(行動観察, ワークシート)

5 本時の展開

(1) 本時の目標

他の作品と「大造じいさんとがん」を比べながら作品のテーマを話し合うことを通して、「大造じいさんとがん」に込められた椋鳩十のメッセージを読み取ることができる。

(2) 観点別評価規準

物語の展開に即して登場人物の心情の変化とその理由を読み取り、話し合いを通して考えを深めている。

【読むこと】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) と支援 (◆)	評価基準 (評価方法)		
1 本時の課題を確認する。	「大造じいさんとがん」に込められた椋鳩十のメッセージを語り合おう。			
2 これまでの学習を振り返り、話し合いの視点に沿ってグループで話し合い、自分の根拠を確かめる。	<p>○ 「動物と人間との関係の変化」「クライマックス」という読みの視点に沿ってグループで確かめさせる。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"> <p>【『片耳の大シカ』コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉助おじさんと片耳の大シカとの関係 ・片耳の大シカが人間を嵐から守る。 </td> <td style="width: 50%;"> <p>【『月の輪グマ』コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わたし」と母グマとの関係 ・滝から飛び降り、子グマを守る。 </td> </tr> </table> <p>【『金色の足あと』コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正太郎とキツネ家族との関係 ・親ギツネが崖から落ちた正太郎を守る。 	<p>【『片耳の大シカ』コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉助おじさんと片耳の大シカとの関係 ・片耳の大シカが人間を嵐から守る。 	<p>【『月の輪グマ』コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わたし」と母グマとの関係 ・滝から飛び降り、子グマを守る。 	
<p>【『片耳の大シカ』コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉助おじさんと片耳の大シカとの関係 ・片耳の大シカが人間を嵐から守る。 	<p>【『月の輪グマ』コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わたし」と母グマとの関係 ・滝から飛び降り、子グマを守る。 			
3 視点に沿って発表し、椋鳩十のメッセージについて全体で話し合う。	<p>○ 全体の話合いでは、それぞれの作品について「動物と人間との関係が何によって変わったか」を発表させ、『大造じいさんとがん』との共通点を考えさせる。</p> <p>◆ グループでの話し合い→全体での話し合いを繰り返し行う。グループでの話し合いでは、最初の担当以外の作品についても話し合わせ、友達の発言に対する考えを持たせる。</p>			
4 話し合いを通して、「大造じいさんとがん」に込められた椋鳩十のメッセージについて考えたことをまとめる。 (評価問題)	<p>○ 椋鳩十は、クマやキツネ、シカの行動について詳しく描いている。「大造じいさんとがん」では、がんの賢さを書いている。だから、椋鳩十は動物の賢さを伝えたかったのではないか。</p> <p>○ 動物に対する人間の気持ちが、「人間を助ける」「子どもを助ける」など、人間がもともとと思っていた以上の動物の行動によって、人間の動物に対する認識が変わっている。「大造じいさんとがん」では、仲間を命がけで助ける残雪の姿に人間が感動している。だから、椋鳩十は、人間も動物も仲間を思う、家族を思うという気持ちは同じだ、人間も動物も区別なく同じ生き物だと伝えたかったのではないか。</p> <p>○ 大造じいさんは、残雪にまるで人間同士のような友情を感じている。人間と動物を超えた絆のようなものを椋鳩十は伝えたかったのではないか。</p>	○ 読みの視点に沿って共通点を見付け、話し合いを通して椋鳩十のメッセージについて考えを深めている。 【読む】(ワークシート)		
5 振り返りをする。	○ 話し合いを通して、大造じいさんと残雪の関係について読み深めることができたかどうかを「他者視点」「自己モニター」の視点で振り返る。			

1964 東京オリンピックから 2020 へ

指導者 才谷 瑛一

1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第6学年の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

(1) 我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。

ケ 日華事変、我が国にかかわる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピックの開催などについて調べ、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが分かること。

(1) 単元観

本単元は、日本国憲法の制定、オリンピックの開催などの歴史的な事象を取り上げ、これらを具体的に調べることを通して、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民の不断の努力や産業の復興によって国民生活が向上したことが分かるようにすることをねらいとしている。

今から50年前、アジアで初めてのオリンピックが東京で開催された。戦後からわずか19年後のことである。オリンピック開催に向け、国民は、各種競技場の建設を始め、高速道路、東海道新幹線の交通網を整備するなど、敗戦で失った自信を取り戻し、世界に誇れる国を目指して努力した。オリンピックは成功し、産業の復興により国民生活は豊かになり、民主的で平和主義的な国としての出発を見事に果たしたのである。しかしながら、オリンピックの成功、高度経済成長の影で、新たな問題も生まれた。

オリンピックを6年後に控えた私達にとって、1964年の東京オリンピックを中心に調べ、2020年のオリンピックの在り方について考えることは、戦後の日本の歩みや日本の抱える問題を理解し、これからの日本の在り方について考えるのにふさわしい単元だと考える。

(2) 児童観

本学級の児童は、これまで分かったことや考えたことを単元の終わりに新聞にまとめて学習を進めてきた。歴史の学習に興味を持つ児童が多く、1学期末時点で歴史人物を30人以上言える児童は、20名いる。しかしながら、知識や理解に個人差が大きく、歴史人物や出来事などの暗記に止まる傾向がある。

思考力・表現力の実態

これまでの学習で理由や根拠を挙げながら自分の考えを話したり書いたりできる児童は24名いる。しかし、理解したことを自分なりの解釈を付け加えながら説明することのできる児童は、6名程度しかいない。情報を抜き出すことや事実を答えることはできるが、歴史的事象をより広い視野からとらえ、自分なりの解釈をして表現することに課題がある。

(3) 指導観

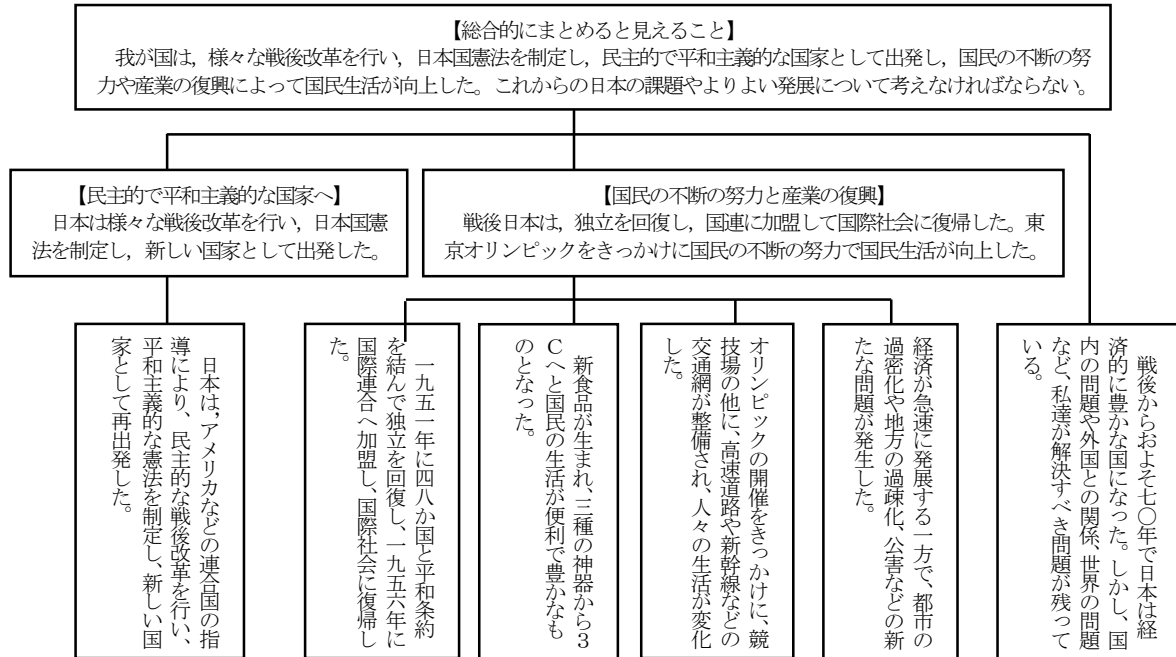
歴史的事象に関する知識の個人差が大きいため、モジュール授業を通して、基礎的な知識を習得させる。歴史人物や出来事の暗記に止まることのないよう、単元に入る前から家族への聞き取り活動や個人での調べ学習など、体験的な活動を取り入れるようにする。

自分なりに解釈したことを話したり、書いたりする力を育てるために、単元を通して、歴史的事象に対する自分の考えを書く活動、課題に沿ってペアやグループ、全体で話し合う活動、新聞にまとめる活動を設定する。話し合いの場面では、オリンピックのスローガンについて話し合わせることで、それぞれの時代背景に対する解釈を表現させる。ノートには、まとめやふりかえりとして本時の課題だけでなく、単元の学習課題に対する感想も書かせるように指導する。

(4) 単元でめざす児童の姿

- 日本国憲法の制定、オリンピックの開催など我が国の戦後の歩みを通して、国民の不断の努力によって国民生活が向上したことが分かるとともに、平和で民主的な国家の一員として、これからの日本の課題やよりよい発展について考えようとする。
- 我が国の戦後の歩みから学習問題を見だし、年表、家族の話、その他の資料を活用して調べたことをまとめるとともに、国民の不断の努力によって国民生活が向上したことや平和で民主的な国家の一員として世界の人々とともに生きていくことの大切さについて思考・判断したことを表現する。

2 内容構造図



3 単元の評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
単元の評価規準	我が国の戦後の歩みに関心をもち、進んで調べようとしている。	戦後、我が国が民主的な国家として出発し、国民の不断の努力によって国民生活が向上したことや平和で民主的な国家の一員として世界の人々とともに生きていくことの大切さについて思考・判断したことを、言語などで適切に表現している。	年表や家族の話、その他の資料を活用して必要な情報を集めて読み取り、新聞にまとめている。	戦後、我が国が民主的な国家として出発し、国民の不断の努力によって国民生活が向上したことがわかっている。

4 指導計画 (全8時間)

次	学習活動	めざす児童の姿
一	代々木競技場の現在と過去を調べ、学習課題を作る。(1)	日本の戦後の歩みに興味・関心をもち、学習課題について調べようとしている。 【関・意・態】(ノート, 行動観察) 戦後日本はオリンピックの開催に向けて、どのように歩み、どのような国になったのだろうか。
二	代々木競技場の建設前と、戦後改革、日本国憲法の制定について調べる。(1)	年表や各種の資料から、戦後改革や日本国憲法の制定により、日本が民主的で平和主義的な国として出発したことを読み取っている。 【技能】(ノート, 行動観察)
	高速道路、新幹線などオリンピックの開催に合わせて建設された施設について調べる。(1)	オリンピックの開催を契機に、国民の努力によって都市が整備されたり、経済が発展したりしたことが分かっている。 【知・理】(ノート, 行動観察)
	都市の過密化や地方の過疎化、環境問題など新しい問題について調べる。(1)	戦後、経済が急速に発展していく影で、新たな問題が生まれたことが分かっている。 【知・理】(ノート, 行動観察)
	代々木競技場の建築と丹下健三について調べる。(1)	写真や各種の資料から、丹下がどのような願いで代々木競技場を建築したか読み取っている。 【技能】(ノート, 行動観察)
	東京オリンピックのスローガンを考える。(1) (本時6/8)	建設された施設や人々の声から、オリンピックの成功により、日本国民としての自信を取り戻した人々の思いや願いについて考えている。 【思・判・表】(ノート, 行動観察)
三	日本の戦後の歩みとこれからの日本のよりよい発展についてまとめる。(2)	戦後の日本の歩みやこれからの日本の発展など、分かったことや考えたことを適切に表現している。 【思・判・表】(新聞)

5 本時の展開

(1) 本時の目標

オリンピックの開催に合わせて建設された施設や人々の声について調べることを通して、オリンピックの成功により、日本国民としての自信を取り戻した人々の思いについて考えることができる。

(2) 観点別評価規準

オリンピックに向けて建設された施設や人々の声から、オリンピックの成功により、日本国民としての自信を取り戻した人々の思いや願いについて考えている。【思・判・表】

(3) 準備物

オリンピックスローガン，文書資料（当時の人々の声）

(4) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) と支援 (◆)	評価規準 (評価方法)
1 本時の課題を確認する。	○ 2020年のオリンピックスローガン（合言葉）「今、ニッポンにはこの夢の力が必要だ」を紹介し、1964年のオリンピックのスローガンを何にするか考えさせる。	
1964年の東京オリンピックに合うスローガンを決めよう。		
2 2人組で考える。	○ スローガンを何にするか2人組で考えさせ、スローガンとその理由をノートに書かせる。 ◆ 考えを持つことが難しい児童には、教室内の掲示物や調べ学習をしたノートを指し示し、理由と根拠を持たせる。 ○ スローガンを考えさせることを通して、当時の人々の願いを歴史背景やオリンピックに合わせて建設した施設などに関連付けて考えさせる。	
3 オリンピックのスローガンを何にするか全体で話し合う。	○ スローガンとその理由を発表させ、カテゴリーに分けながら、板書する。 ○ オリンピックのスローガンの理由や根拠を施設の過去や現在、敗戦国から立ち直った人々の思いなどを根拠として、広い視野からまとめさせる。	
4 まとめをする。(評価問題)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【平和な世界へ】 代々木競技場のように、戦争のための場所がスポーツのすばらしさを感じる場所へと変化したから。</p> <p>【世界に見せよう！日本の底力！】 世界最速の新幹線の開発やアメリカ代表選手をうならせた代々木競技場の建築のように、敗戦国だった日本が世界に誇れる技術を見せることができたから。</p> </div>	○ オリンピックに向けて建設された施設や人々の声から、オリンピックの成功により、日本国民としての自信を取り戻した人々の思いや願いについて考えている。 【思・判・表】（ワークシート）
5 振り返りをする。	○ 友達の考えのよさや東京オリンピックの価値について振り返えさせる。	

伴って変わる2つの量を調べよう

指導者 隆杉 佳代

1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第6学年の「D数量関係」の内容に基づき設定した。学習指導要領には以下のように示されている。

- (2) 伴って変わる二つの数量関係を考察することができるようにする。
 - ア 比例の関係について理解すること。また、式、表、グラフを用いてその特徴を調べること。
 - イ 比例の関係を用いて、問題を解決すること。
 - ウ 反比例の関係について知ること。

(1) 単元観

児童は、第5学年までに、伴って変わる二つの数量の関係については、その対応や変化の仕方の特徴について、表などを用いて調べることを中心に学習している。

本単元では、これまでに指導してきた数量関係についての見方をまとめるために、伴って変わる二つの数量の中から特に比例の関係にあるものを中心に考察し、関数の考えを伸ばすことをねらいとしている。

まず、伴って変わる2つの数量の関係を調べ、それぞれの変わり方を比較する中で、比例の関係を理解させる。2つの数量の変わり方を表などに表し、「伴って変わる2つの数量の一方が2倍、3倍、…になると、もう一方も2倍、3倍、…となると、この2つの数量は比例する」という比例の意味を理解させる。また、比例関係にある2つの量を x と y を用いた式($y = \text{決まった数} \times x$)で表すことを指導し、決まった数の意味と求め方を理解させる。比例関係にある2つの数量の組をグラフに表したり、グラフからいろいろ読み取ったりさせる。そして、比例関係の見方、調べ方をもとにして、反比例の関係である事象を調べ、反比例の意味や式、グラフなどを、比例と比較しながら理解させる。

また、比例・反比例の学習は、中学1年で負の数も含めて学習され、より一般化されたものとしてまとめられる。そして、その後、1次関数が学習される。従って、本単元は小学校としての比例関係のまとめであるとともに、中学校の関数指導につながるものとして、関数の見方や考え方を伸ばすところでもある。

(2) 児童観

本学級の児童は、「算数が好き」と答えた児童は24名であった。その理由としては、難しい問題が解けると嬉しい、早く計算できると楽しいという意見が多かった。

レディネステストの結果から、比例するものを選ぶ問題ができた児童は23名だった。しかし、何が何に比例しているのか、伴って変わる2つの量の関係を式に表すことができた児童は20名であった。

思考力・表現力の実態

算数が好きな児童は、自分の考えをノートに図や表、言葉を使って書くことができている児童が多い。しかし、算数が苦手な児童は、問題の意味理解ができず、自分の考えを説明しようとする児童が少ない。

また、情報過多の問題では、必要な情報を選びとることが苦手であったり、既習事項を活用して考える問題では、既習事項の何を使って考えるといいのか分からなかったりする児童がいる。

レディネステストの結果から、比例の関係にあるかどうか、表から正確に解く児童は23名いた。しかし、何が何に比例しているのかを明確に説明できる児童は18名と少なかった。

(3) 指導観

単元を通して、比例・反比例の関係をより理解できるように、常に何が何に比例・反比例しているのか、伴って変わる2つの数量の関係を問うようにしていく。

また、日常生活で比例の関係を活用している場面を取り上げて問題を解く活動を繰り返す中で、自分でも日常生活の中から比例の関係がある場面を取り上げ、生活でも活用したいと思ったり、活用できるようにさせたりしていきたい。

比例・反比例の関係を意味理解が正しくできるよう、表や図をもとに式を考えさせるようにしていく。また、式をグラフに表したり、グラフから式を考えたりすることができるようにする。そして、なぜそれが比例・反比例の関係と言えるのか、その理由を繰り返し説明する活動を多く取り入れたい。

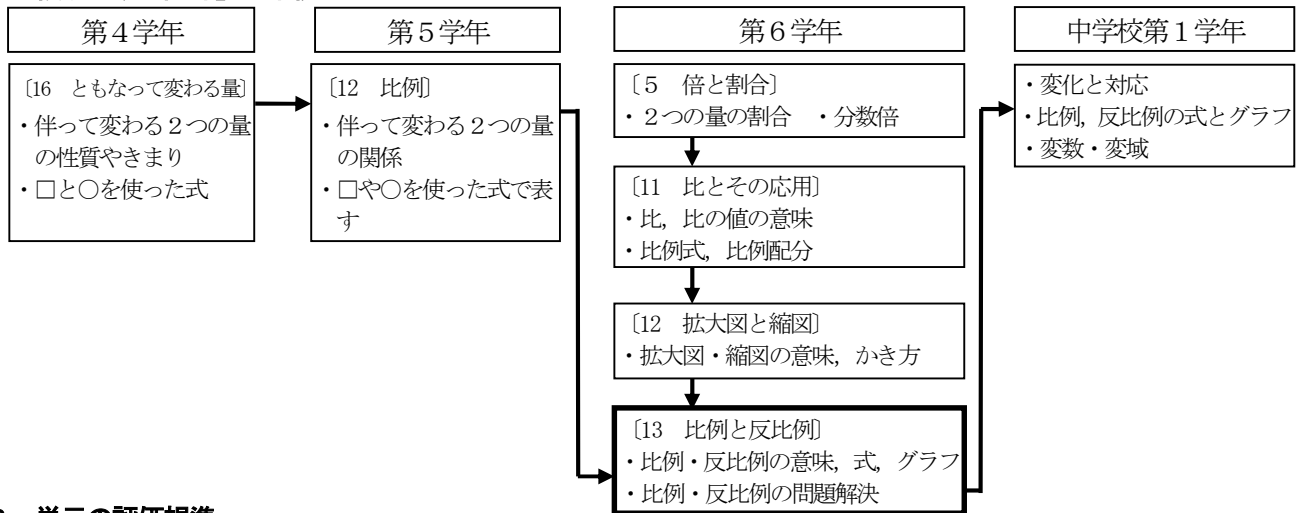
また、日常生活や他教科で比例の問題場面を活用していきたいと思うことができる問題の工夫をしていく。そして、情報過多の問題や既習の活用の問題を取り入れ、情報を正確に選びとったり、既習事項のどの考え方を活用したりするといのかを話し合わせ、思考を深めていく。

本時では、300枚の折り紙があるか確かめる方法を説明する中で、表の中から折り紙の枚数と重さが比例の考え方を使って求めることができることに気付かせたい。

(4) 単元でめざす児童の姿

- 2つの量の関係を比例や反比例の定義や性質を使ってとらえたり、表やグラフから2量の関係を考察したりしている。(数学的な考え方)
- 日常生活の中で、比例や反比例の関係をj用いて問題を解決しようとしている。(関心・意欲・態度)

2 領域「数量関係」の系統



3 単元の評価規準

	関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
単元の詳細規準	日常生活の中で、比例や反比例の関係をを用いて問題を解決しようとしている。	2つの量の関係を比例や反比例の定義や性質を使ってとらえたり、表やグラフから2量の関係を考察したりしている。	表やグラフから数量を読んだり、比例や反比例の関係を表やグラフに表したりすることができる。	比例や反比例の定義や性質を理解し、その関係を表やグラフに表す方法を理解している。

4 指導計画 (全17時間)

次	学習活動	めざす児童の姿
一 比例	いろいろな表から、場面を考え、比例になる場合について考えることができる。(1)	いろいろな表から、比例になる表を選ぶことができる。 【関・意・態】(行動観察、ノート)
	針金の長さとうかさの表を見て、どのように変わっているかを話し合う。(1)	表から2量の関係を捉えることができる。 比例の意味を理解している。 【技能】(ノート) 【知・理】(ノート)
	水槽に入れた水の量と水の深さが比例していることを知り、2量の関係を調べる。(1)	比例関係を式に表すことができる。 比例関係を表す式について理解している。 【技能】(ノート) 【知・理】(ノート)
	針金の長さとうかさの表から決まった数を求め、関係を式に表す。(1)	比例の式の決まった数の意味を理解している。 【知・理】(ノート)
	正三角形や正方形の1辺の長さとうりの長さを比例の式に表す。(1)	比例関係を式に表すことができる。 【技能】(ノート)
二 グラフの比例	水槽に入れた水の量と深さの関係を調べ、表やグラフに表す。(1)	比例関係を表すグラフの特徴を理解している。 【知・理】(ノート)
	グラフから様々な情報を読み取る。(1)	グラフから対応する数量を読み取るすることができる。 【技能】(ノート)
三 比例の性質を使って	紙の重さから枚数を確かめる方法を考える。(1) (本時8/17)	比例の関係をを用いて、紙の枚数を確かめる方法を考えている。 【考え方】(ノート・プリント)
	コーラの量とコーラの中に含まれる砂糖の量との関係・おもりの重さとゴムの伸びる長さの関係を表したグラフを読み取る。(1)	比例関係をを用いたり、比例のグラフをもとにしたりして問題を解決している。 【考え方】(ノート)
	3つの予測をもとに、比例のグラフをかく。(1)	比例関係を活用して、将来のことを予測できることを理解している。 【知・理】(ノート)
	既習事項の理解を深める。(1)	比例関係を表や式に表すことができる。 【技能】(ノート)
四 反比例	面積が一定の長方形の縦と横の長さの関係を調べる。(1)	2量の関係を、表などを用いて考えている。 【考え方】(ノート)
	面積一定の長方形の長さをx、縦の長さをyとしたときに、xとyの対応する数のきまりを見付け、式に表す。(1)	反比例の関係を、式に表すことができる。 【技能】(ノート)
	$x \times y = 24$ のx, yに対応する点の組をグラフに表す。(1)	反比例のグラフの特徴を理解している。 【知・理】(ノート)
	歯車の歯数と回転数の関係を表にまとめる。(1)	反比例の事象が身の回りで見られ、活用されていることに気付き、日常生活に対する興味をもっている。 【関・意・態】(ノート)
既習事項の理解を深める。(1)	反比例の関係にある2量について求めることができる。 【技能】(ノート)	
習練五	歯車と距離の関係を考え、問題を解決する。てんぷんが釣り合うときのきまりを調べ、反比例の関係をを使って問題を解決する。(1)	身の回りの事象を反比例の観点で考察している。 【考え方】(ノート)

5 本時の展開

(1) 本時の目標

折り紙の枚数と折り紙の重さの表から比例の考え方をを用いて、折り紙の枚数を確かめる方法を考えることができる。

(2) 観点別評価規準

折り紙の枚数と折り紙の重さの表をもとに、比例の考え方をを用いて、折り紙が 300 枚あるかどうかを確かめる方法を考えている。【数学的な考え方】

(3) 準備物

折り紙, はかり, 評価問題

(4) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) と支援 (◆)	評価規準 (評価方法)
1 本時の問題を提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 全校紙飛行機大会をするために、折り紙が 300 枚必要です。先生が今準備している折り紙は、300 枚あるでしょうか。 </div>	○ 枚数を求めるためには、重さや厚さが分かれば、数えなくても求めることができると予想させ、児童にその理由を問う。 ○ 教師が準備している折り紙の重さ (350 g) を量り、300 枚あるのか数を数えずに求める方法を予想させる。	
折り紙を全部数えないで、本当に 300 枚の折り紙があるか確かめる方法を説明しよう。		
2 本時のめあてを確認し、解決方法の見通しをもつ。 3 枚数と重さの表から、300 枚あるか確認する方法を考える。	○ 紙の枚数と重さを調べている表をもとに、折り紙が 300 枚あるか確かめる方法を考えることを押さえる。 ○ 枚数と重さの表から、350 g の折り紙が 300 枚かどうかを考えさせる。 ○ 式だけでなく、表と対応させながら、何と何が比例関係になっているのかを説明させるようにする。 ◆ 表をもとに、ヒントカードを使って求めさせる。	
4 300 枚の折り紙があるか確かめる方法を全体で話し合う。	○ ①②は、枚数と重さの関係から、枚数が 2 倍、3 倍、…になると、重さも 2 倍、3 倍、…になっていることから、枚数と重さが比例関係になることを説明させる。 ○ ③④は、 x が 1 の時の y の値は、1.25 になることを説明させる。 ○ 自分の考え方と比較して聞いたり、友達の考えの共通点を考えながら聞いたりさせる。	○枚数と重さの表から、比例の考え方をを使って枚数を求める方法を考えている。 【考え方】 (ノート)
5 まとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 枚数を全て数えなくても、x が 2 倍、3 倍、…すると、y も 2 倍、3 倍、…する考え方や $y = \text{決まった数} \times x$ の考え方を使うと簡単に求めることができる。 </div>	○ それぞれの考え方の共通点から、まとめを考えさせる。	
6 練習問題を解く。 (評価問題) 7 振り返りをする。	○ 比例の考え方をを使って、練習問題を解かせる。 ○ 本時で学習したことを振り返らせる。 ○ 自分の考えが深まった点や、友達の意見で新しく発見したことなどをまとめさせる。	○ 比例の考え方をを使って、メダルに必要な長さのひもの求め方を考えている。 【考え方】 (プリント)

金魚を買いに行こうプロジェクト

指導者 石倉 さゆり

特別支援教育支援員 石田 博子

1 単元について

- 本単元は，小学校学習指導要領第2学年の「B (3) 時間の単位」(2年生A児)・第3学年の「B (3) 時刻と時間」(4年生B児，C児)，特別支援学校小学部学習指導要領の「算数 2内容○3段階」(6年生D児)の内容に基づき設定した。学習指導要領には，以下のように示されている。

第2学年

B (3) 時間について理解し，それをを用いることができるようにする。

ア 日，時，分について知り，それらの関係を理解すること。

第3学年

B (3) 時間について理解できるようにする。

ア 秒について知ること。

イ 日常生活の中で必要となる時刻や時間を求めること。

特別支援学校に準ずる

2内容 3段階 (4) 時計や暦に関心を持つ。

(1) 単元観

本単元の学習は，具体的な場面に基づいて，時計を使って時刻を読んだり，時間の流れを感じ取らせ，時刻を時系列的に読み取らせたり，活動スケジュール表を作成したりして，時刻と時間を生活の中で活用することがねらいである。

一学期に飼っていた金魚が死んだため，新たに金魚を買いに行くことになった。そこで，活動計画を立てることが必要となった。生活経験と関連付けて「時間」「時刻」を考えさせたり，時間を量として捉えさせたりすることにより，今後，時計を見ながら見通しをもった生活ができるよう指導していきたい。

(2) 児童観

A児は，時計を見て，時刻を読むことができる。「○分前」，「○分後」の時刻の理解は不十分である。「午前，午後」「時刻と時間」の言葉の意味を理解して使うことができない。

B児は，時計を見て，「○時○分」と読むことができるが，見通しをもって動くことはできたりできなかったりしている。

C児は，「○時」は読める。1日の生活の流れにこだわりがあり，予定されている通りに動くことはできるが，「時間」「時刻」はあまり意識されていない。

D児は，1日の生活の流れは理解できているが，時刻は，「○時」を読むとき，長針と短針を間違えて読むことがある。「○分」は，理解がまだ不十分である。

4人とも時計を生活の中で活用して動く場面はまだ少ない。

(3) 指導観

日常の生活場面を想起させながら，時刻の読みを確実にさせるとともに，時間の経過を具体的な場でつかめるよう指導する。「時刻」「時間」の計算の導入にあたっては模型時計の針の回転量を視覚的にとらえさせ，それにより時間の概念を理解できるように指導する。

A児は，「○分前」「○分後」の時刻を求める。模型時計を用いて，時間を求める。

B児は，24時制を「午前」「午後」の言葉を用い，12時制にする。計算を用いて，時刻，時間を求める。

C児は，「○分前」「○分後」の時刻を求める。ヒントに模型時計を用いながら，計算によって時間を求める。

D児は，ヒントや支援により「○時○分」の時刻を読む。

学習が，生活に結び付いた具体的な活動を設定することで，時計の概念を活用することの便利さ，必要性を実感させたい。

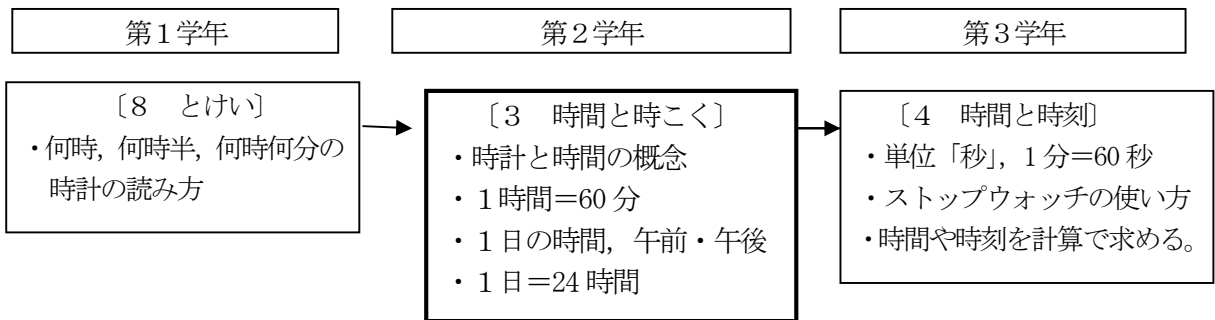
できる限り子どもの成功体験を豊富（肯定的で多種・多量な評価，即時評価）にするとともに，自発的・自主的な活動を大切に，主体的活動を促すように指導する。

(4) 単元でめざす児童の姿

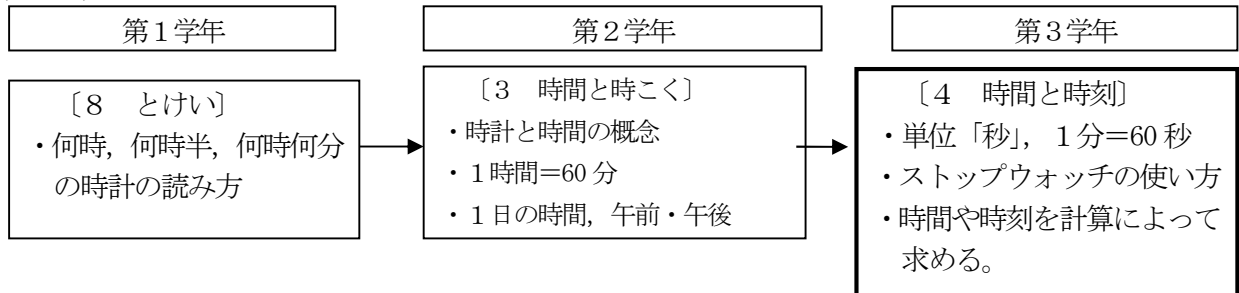
- 必要な時刻・時間を求めることができる。(技能)
- A児 必要な時刻・時間を模型時計を使って求めることができる。
- B児 必要な時刻・時間を計算によって求めることができる。「午前」「午後」を用いて24時制を12時制に直すことができる。
- C児 必要な時刻を模型時計をヒントにして計算によって求めることができる。
- D児 必要な時刻を支援を受けながら求めることができる。
- 時計の概念を使って計画表を作ろうとする。(関心・意欲・態度)

2 領域「数と計算」の系統

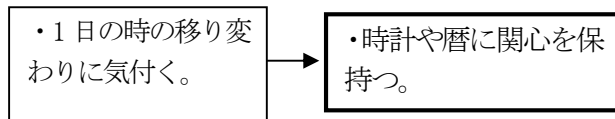
A児



B児・C児



D児



3 単元の評価規準

A児

	関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
単元の評価規準	時計に関心をもち、日常生活の中でも、時間と時刻を使いわけようとしている。	長針・短針の回り方と目盛りの関係をとらえ、時刻を調べている。	必要な時間や時刻をもとめることができる。また、単位換算ができる。	長針・短針の回り方、目盛りの読み方を理解している。

B児・C児

	関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
単元の評価規準	日常生活の中から「秒」を単位として測定する場面を見つけて、実測したり感覚的に時間を図ったりしようとしている。	秒・分・時の関係が60進法に基づいていることから、具体物や図式を用いて、時間や時刻の求め方を考えている。	ストップウォッチを用いて時間を測定したり、時間や時刻を求めたりできる。	分と秒の関係、時間と時刻の求め方を理解している。

D児

	関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
単元の評価規準	時計に関心をもち、時刻を読もうとする。	長針・短針の回り方と目盛りの関係をとらえ、時刻を調べている。	ヒントや支援を受け、必要な時刻を読むことができる。 支援を受けながら、絵カードを時系列で並べることができる。	長針・短針の回り方、目盛りがあることを理解している。

4 指導計画 A児 (全8時間)

次	学習活動	めざす児童の姿
一	時計の短針と長針を見て、「何時何分」と時刻を読む。 時計を見ながら、1分間の長さを体験する。 長針が何目盛り進んだのかを読み取り、かかった時間を調べる。 時刻と時間の違いを知る。 長針が1回りするときの短針の動きを調べ、長針の1回りが60分であることを具体的な場面で確かめる。(1)	時計の仕組みや時間の関係を用い、時間を調べることができる。 【技能】(発表・ノート) 長針と短針の動きと時間の関係を理解している。 【知・理】(発表・ノート)
二	1日の短針は何回回るか調べ、1日が何時間になるか分かる。 生活の場面の時刻を、午前、午後を付けて読む。 数直線をもとに、時刻や時間を読み取る。(1)	1日=24時間であることがわかり、午前、午後を付けた時刻の表し方を理解している。 【知・理】(発表・ノート)
	帯時計や模型時計を用いて、ある時刻から何時間後の時刻や、ある時刻からある時刻までの時間を求める。 時刻を時計の文字盤に表す。(1)	長針・短針の回り方とメモリの関係をとらえ、時間や時刻を調べる。 【考え方】(発言・ノート) 時刻を時計の文字盤に表すことができる。 【技能】(ノート)
三	レシートや切符から時刻の表記を見付け、読み取る。 数直線をもとに、24時間制表記の時刻が午前・午後のどちらであるか見分けたり、12時間制に言い換えたりする。(1)	1日=24時間であることや午前・午後の言葉と結び付けて、24時制表記の時刻を考えようとしている。 【関・意・態】(行動観察・ノート)
	金魚を買いに行くための計画表を作る。(2) (6/8本時)	時間の経過に着目しながら、時刻と時間を順序良く計画表に表すことができる。【技能】(発表・ワークシート)
四	金魚を買いに行く。(2)	計画表を活用して、活動ができる。【技能】(行動観察)

指導計画 B児・C児（全8時間）

次	学習活動	めざす児童の姿
一	ストップウォッチを用い、経っている時間を測定する。 秒と分と秒で表したり、分を秒で表したりして時間の長さの大小を比べる。 分と秒を用いて、紙飛行機の飛んでいる時間をストップウォッチで測定する。(1)	分と秒の関係が分かり、秒を分と秒に直すことができる。 【技能】(行動観察・ノート) 分と秒の関係を理解している。 【知・理】(行動観察・ノート)
	バスの時刻表の中に、「午前」や「午後」が使われていないわけを考える。 12 時制の時刻を 24 時制に直す方法を考える。 24 時制の時刻を 12 時制に直す方法を考える。(1)	12 時制で表された時刻、24 時制で表すことができる。 また、その逆ができる。【技能】(発表・ノート)
二	発車時刻と到着時刻から、新幹線が走るのにかかる時間を求める。 2つの時間の合計を求める。(1)	繰り上がりや繰り下がりのある時間の計算を、具体物や図、式を用いて考えている。【考え方】(ノート)
	発車時刻や到着時刻と走行時間から、到着時刻や発車時刻を求める。(1)	発車時刻や到着時刻と走行時間から、到着時刻や発車時刻を求めることができる。【技能】(ノート)
三	金魚を買いに行く計画表を作る。(2) (6/8本時)	計画表を作るために必要な数を時間や時刻を計算して、計画表を作る。【技能】(発表・ワークシート)
四	金魚を買いに行く。(2)	計画表を活用して、活動ができる。【技能】(行動観察)

指導計画 D児（全8時間）

次	学習活動	めざす児童の姿
一	身の回りにある時計を見付ける。(1)	身の回りにある時計を見つけようとする。 【関・意・態】(行動観察)
	時計には長針・短針の2本の針があることが分かる。 文字盤の数字は1から12まであり、上が12でその右が1になっていて右回りに順にならんでいることが分かる。(1)	時計には長針・短針の2本の針があることが分かる。 文字盤の数字は1から12まであり、上が12でその右が1になっていて右回りに順に並んでいることが分かる。 【知・理】(行動観察・ワークシート)
二	針は右回りに動くことがわかる。 長針と短針は動く速さが違うことが分かる。(1)	針は右回りに動くことがわかる。 長針と短針は動く速さが違うことが分かる。 【知・理】(行動観察)
	長針が12を指しているとき、短針が示している数字が「〇時」を表していることがわかる。(1)	長針が12を指しているとき、短針が示している数字が「〇時」を表していることがわかる。【知・理】(ワークシート)
三	金魚を買いに行く計画表を作る。(2) (6/8本時)	金魚を買いに行く計画表を支援を受けながら作ろうとする。 【関・意・態】(発表・行動観察)
四	金魚を買いに行く。(2)	支援を受けながら、計画表を活用して、活動しようとする。 【関・意・態】(行動観察)

5 本時の展開

(1) 本時の目標

- A児 模型時計を用いて、必要な時間や時刻を求める。
- B児 計算により必要な時間や時刻を求める。24 時制で表された時刻を、「午前」「午後」を用いて 12 時制で表す。
- C児 模型時計をヒントにして、計算により必要な時刻を求める。
- D児 支援を受けながら、必要な時刻を求める。

(2) 観点別評価規準

- A児 模型時計を用いて、必要な時間や時刻を求める。 時間の換算をする。 【技能】
- B児 計算により必要な時間や時刻を求める。24 時制で表された時刻を、「午前」「午後」を用いて 12 時制で表す。 【技能】
- C児 模型時計をヒントにして、計算により必要な時刻を求める。 【技能】
- D児 支援を受けながら、必要な時刻を求める。 【関心・意欲・態度】

(3) 準備物

模型時計（児童用・教師用），計画表（児童用・教師用）

(4) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点 (○) と支援 (◆)				評価方法
1 挨拶をする。					A児 模型時計を用いて、必要な時間や時を求める。【技能】(発表・ワークシート) B児 模型時計をヒントにして、計算により必要な時刻を求める。【技能】(発表・ワークシート) C児 計算により必要な時間や時刻を求める。24 時制で表された時刻を、「午前」「午後」を用いて 12 時制で表す。【技能】(発表・ワークシート) D児 支援を受けながら必要な時刻を求める。【関心・意欲・態度】(発表・行動観察)
2 本時の内容を知る。	金魚を買いに行こう。				
3 本時のめあてを知る。	時こくや時間を求めて計画表を作ろう。				
4 準備をする。	○ 個に応じた問題を用意する。 ○ 「金魚を買いに行こう」というテーマを設定し、必要な時間や時刻を求めて、計画表を作ることを伝える。 ○ 発表の練習をしておく。 ○ 必要な時刻・時間を調べておく。 ◆ 答えが合っていない場合はヒントを与える。				
5 自分に出された問題を解く。	A児	B児	C児	D児	
	○ 黒板の計画表の時系列に並べられた絵カードの順番を確認する。				
		○ バスの時刻表を見て、24 時制を「午後」と用いて、12 時制に直す。			
	○ 自分の計画表にバスの出発時刻を記入する。 ○ 調べて分かっている時間を自分の計画表に記入する。				
	○ 模型時計を使って、自分の計画表に必要な時刻とペットショップに滞在する時間を記入する。	○ 必要な時刻と所要時間を自分の計画表に記入する。	○ 模型時計をヒントにして、必要な時刻を計算して自分の計画表に記入する。	○ 支援を受けながら必要な時刻を調べて自分の計画表に記入する。	
6 振り返りをする。	○ 模型時計の操作や計算で求めた時刻・時間を発表する。 ○ 黒板書かれた時刻を見ながら模型時計の針を合わせる。 ○ 自分の計画表に時計の針を記入する。 ○ 計画表の確かめをする。 ○ みんなで計画表を完成したことの良さを振り返る。				
7 あいさつをする。					